永遠の真理

ETERNAL TRUTH

2017年 9月

「この日を神と共に」「新地」「ここを見なさい！」「ごぼう味噌」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強
「新地」 4
聖書の教え

朝のマナ
「この日を神と共に」 7
This Day with God

現代の真理
「ここを見なさい!」 38
清めの特別な働き

力を得るための食事
「ごぼう味噌」 44

お話コーナー
「キリストの教え(Ⅲ)」 46
イエスの物語

教会

【正丸教会】

〒368-0071　埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465
FAX：0494-40-1045

【高知集会所】

〒780-8015　高知県高知市百石町 1-17-2
電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261　沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

アクセス www.4angels.jp
メール　support@4angels.jp

発行日　2017 年 8 月 31 日
編集＆発行　SDA 改革運動日本ミッション
〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations:　Sermon view on pages 9, 41, 48

Printed in Japan

だれが世の贖い主の祈りの結果を？

–再臨信仰の始まり–

「あなたがたは、心を騒がせないがよい。神を信じ、またわたしを信じなさい。わたしの父の家には、すまいがたくさんある。もしなかったならば、わたしはそう言っておいたであろう。あなたがたのために、場所を用意しに行くのだから。そして、行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである」（ヨハネ 14:1-3）。

「このように、いつまでも存続するものは、**信仰**と**希望**と**愛**と、この三つである。このうちで最も大いなるものは、愛である」（コリント第一 13:13）。

「『信仰によって、アブラハムは、受け継ぐべき地に出て行けとの召しをこうむった時、それに従い、行く先を知らないで出て行った』（ヘブル 11:8）。……彼にとって、この地上で最も幸福な場所は、神が彼にいるようにお望みになるところであった。……

彼らは、『カナンに行こうとしていで立ち、カナンの地にきた』（創世記 12:5）」（人類のあけぼの上巻 122-125）。

「これらの人はみな、信仰をいだいて死んだ。まだ約束のものは受けていなかったが、はるかにそれを望み見て喜び、そして、地上では旅人であり寄留者であることを、自ら言いあらわした。……しかし実際、彼らが望んでいたのは、もっと良い、天にあるふるさとであった。だから神は、彼らの神と呼ばれても、それを恥とはされなかった。事実、神は彼らのために、都を用意されていたのである」（ヘブル 11:13,16）。

「だれが世の贖い主の祈りの結果を推し量ることができるであろうか。

イエスは、一人のためだけではなく、すべてのご自分の弟子たちのために嘆願された、**『父よ、あなたがわたしに賜わった人々が、わたしのいる所に一緒にいるようにして下さい……』**」（教会への証 4 巻 529,530）。

アブラハムのように、今日も、なお、多くの人々が試みを受ける。彼らは、天から直接語られる神の声を聞かないが、神は、神のみことばの教訓と摂理のできごとによって彼らを召される。……神は、彼らに仕事をさせようとしておられる。……心に秘めた計画や親しい友との交わりを捨てて、神の摂理の召しに応じる者はだれであろうか。キリストのための損は利益であると考えて、新しい任務を引き受け、……堅い決心のもとに喜んで神のみわざに従事するのはだれであろうか。このようにする人は、アブラハムと同じ信仰を持っている。（人類のあけぼの上巻 124）

聖書の教えＸＸII

25章　新地

この地上が千年期の終わりに火によって清められたのち、わたしたちの霊的な先駆者たちに新地に関して与えられた約束が成就します（創世記 12:7; 17:7, 8; 出エジプト記 6:5–8; 使徒行伝 7:2, 5; ローマ 4:13; ヘブル 11:9, 10, 13–16, 39; 13:14）。この地は贖われ、そのもともとのエデンの時の状態に回復されます。万物は新しくされるのです（イザヤ 11:1–11; 32:16–18; 35:4–8; 65:17–25; 詩篇 37:11, 29; ミカ 4:8; マタイ 5:5; ペテロ第二 3:13; 黙示録 22:1–5; ダニエル 2:35, 44; 7:27（黙示録 11:15 参照））。

「神がその民に約束された嗣業は、この世のものではない。アブラハムは、地上で何も持たず、『遺産となるものは何一つ、一歩の幅の土地すらも、与えられなかった」（使徒行伝 7:5）。……アブラハムと彼の子孫への賜物は、カナンの地だけでなく、地球全体を含むものであった。『なぜなら、世界を相続させるとの約束が、アブラハムとその子孫とに対してなされたのは、律法によるのではなく 、信仰の義によるからである』と使徒は言っている（ローマ 4:13）。アブラハムに対してなされた約束は、キリストによって成就されることを、聖書は明らかにしている。キリストにある者はみな、『アブラハムの子孫であり、約束による相続人なのである』。すなわち、罪ののろいの取り去られた地の『朽ちず汚れず、しぼむことのない資産を受け継ぐ』相続人である（ガラテヤ 3:29、ペテロ第一 1:4）。『国と主権と全天下の国々の権威とは、いと高き者の聖徒たる民に与えられる』『柔和な者は国を継ぎ、豊かな繁栄をたのしむことができる』（ダニエル書 7:27、詩篇 37:11）」（人類のあけぼの 178, 179）。

「『羊の群れのやぐら、シオンの娘の山よ、以前の主権はあなたに帰ってくる』（ミカ書 4:8）。炎の剣によってアダムとエバがエデンからしめ出されて以来、聖徒たちが待ちこがれていたところの、『神につける者が全くあがなわれ』る時がきた（エペソ 1:14）。もともと人にその王国として与えられたのに、サタンの手に売り渡され、長い間強力な敵に占領されてきた地が、大いなる贖いの計画によって再びもどされたのである。罪によって失われたいっさいのものは回復された。『……主、すなわち……地をも造り成し、これを堅くし、いたずらにこれを創造されず、これを人のすみかに造られた主はこう言われる」（イザヤ書 45:18）。地上が贖われた者たちの永遠のすみかとなる時、地を創造された時の神の最初

の目的が達成される。『正しい者は国を継ぎ、とこしえにその中に住むことができる」（詩篇 37:29）」（各時代の大争闘下巻 462, 463）。

贖われた人々の永遠の家郷となる新地には、もはや苦しみはありません。「先のものが、すでに過ぎ去ったからである」。罪もその創始者ももはや存在することをやめ、大争闘は終焉を迎えた（黙示録 21:1–7）。

光と栄光で都を覆う神のご臨在のゆえに、新エルサレムにはもはや夜がありません（黙示録 21:25; 22:3–5）。

「神の民は天父とみ子とに自由に交わる特権がある」（各時代の大争闘下巻 465）。

安息日ごとに、すべての者が永遠にわたって、神のみ前で会うようになります（イザヤ 66:22, 23）。パウロは神が贖われた人々のために用意された場所について次のように言及しています、『目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた』のである」（コリント第一 2:9）。

「悪人を焼きつくしたのと同じ神からの火が、全地を清めた。裂けて岩角のけわしい山々は激しい熱に焼けとけた。また、大気もすべての田畑も焼けうせてしまった。こうして、われわれの嗣業が、栄光に輝いて美しくわれわれの眼前に展開された。そして、われわれは、新たにされた全地を受けついだのである。われわれは、みな大声で、『栄光あれ、ハレルヤ！』と叫んだ」（初代文集 123, 124）。

「キリストは弟子たちに、わたしはあなたがたのために父の家に住むところを備えに行くのだとはっきり言われた。神のみ言葉の教えを受け入れる者は、天のすまいについて全く無知ではない」（各時代の大争闘下巻 463）。

「あがないの働きは完成される。罪の充満していたところに神の恵みがもっと充満する。サタンが自分の働き場所として主張していたこの地上そのものも、ただあがなわれるばかりでなく、また高められるのである。罪ののろいのために神の輝かしい創造における一つの汚点となっていたわれわれのこの小さな世界が、神の宇宙のどんな他世界にもまさってあがめられる。神のみ子が人のかたちをとり、栄光の王が生活し、苦難を受け、死なれたこの地上―ここに神が万物を新たにされる時、『神の幕屋が人とともにあり、神が人とともに住み、人は神の民となり、神みずから人とともにいま』すのである（黙示録 2:3）。そして永遠にわたって、あがなわれた者は、神の光の中を歩むとき、言いあらわしようのない神の賜物であられるインマヌエル―神われらと共にいます―について神を賛美するのである」（各時代の希望上巻 13）。

「わたしたちはまだ地上活動の影と騒動のただ中にいる。この上なく真剣に祝福された

今後を考えようではないか。わたしたちの信仰がすべての暗雲を貫き、世の罪のために死なれたお方を眺めるようにしよう。このお方はご自分を受け入れ、信じるすべての人々にパラダイスの門を開いてくださったのである。彼らにこのお方は神のむすこ娘となる力を与えて下さる。わたしたちに非常に激しい痛みを与える苦痛が、キリストにあるわたしたちの高い召しの賞与を目指して押し進むことをわたしたちに教える有益な教訓となるようにしよう。主がまもなく来られるという思想によって勇気づけられるようにしよう。この望みがわたしたちの心を喜ばせるようにしよう。『もうしばらくすれば、きたるべきかたがお見えになる。遅くなることはない』（ヘブル 10:37）。主が来られるときに、見張っていることを見出される僕たちは幸いである。

わたしたちは家路についている。わたしたちのために死なれるほど愛してくださったお方はわたしたちのために都を建ててこられた。新エルサレムがわたしたちの休息の場所である。神の都には悲しみはない。悲しみの泣き声、砕かれた希望や埋葬された愛情の葬送歌が聞かれることはもはやない。まもなく重荷の衣は婚宴の衣に取り替えられる。まもなくわたしたちは自分たちの王の戴冠式を目撃することになる。自分の命がキリスト共に隠されてきた人々、この地上において信仰の良き戦いをたたかってきた人々は神の王国で贖い主の栄光と共に輝き出るようになる」（教会への証 9 巻 286, 287）。

「大争闘は終わった。もはや罪はなく罪人もいない。全宇宙はきよくなった。調和と喜びのただ一つの脈拍が、広大な大宇宙に脈打つ。いっさいを創造されたおかたから、いのちと光と喜びとが、無限に広がっている空間に流れ出る。最も微細な原子から最大の世界に至るまで、万物は、生物も無生物も、かげりのない美しさと完全な喜びをもって、神は愛であると告げる」（各時代の大争闘下巻 467）。

この日を神と共に

This Day with God

9月

9月1日

与えることができるために受ける

「植える者と水をそそぐ者とは一つであって、それぞれその働きに応じて報酬を得るであろう。」（コリント第一 3:8）

キリストが弟子たちを漁師の網から召されたとき、彼らに人間をとる漁師にしてあげようと言われた。これによってキリストは彼らが働かなければならないと仰せになったのであった。真理を他の人に伝えるにあたって、彼らは網を船の右側に投げ入れるべきであった。これによってキリストは、魂を救うためには信仰をもって働かなければならないと仰せになったのである。そして個人個人のためのこの働きは、神のみ摂理のうちに地域社会のために働くよう、彼らを導くのであった。彼らは自分が働きの異なった組織の一部であると考えるのではなく、同胞とまた神と結びついた、鎖でつながっているように分けられないほど結合した大きな全体の中での個々の糸であると考えるべきであった。

神は青年がキリストのくびきを負い、このお方の重荷を持ち上げつつ熟練した徹底的な働き人になることを望んでおられる。「あなた方は神の共労者である」とこのお方は言われる。子供たちと青年は理解力、精神面での才能において前進することをこのうえなく熱心に求めるべきである。彼らの目的は世俗的なことと同じく霊的なことにも足し算の計画で働くことでなければならない。「それだから、あなたがたは、力の限りをつくして、あなたがたの信仰に徳を加え、徳に知識を、知識に節制を、節制に忍耐を、忍耐に信心を、信心に兄弟愛を、兄弟愛に愛を加えなさい。 これらのものがあなたがたに備わって、いよいよ豊かになるならば、わたしたちの主イエス・キリストを知る知識について、あなたがたは、怠る者、実を結ばない者となることはないであろう」とペテロは言っている（ペテロ第二 1:5-8）。……

真の教育における向上は利己心とは調和しない。真の知識は神から来て、ふたたび神のもとへ帰る。神の子らは自分たちがふたたび与えることのできるために受けるべきである。神の恵みによって知的霊的な益を受けている人々は、自分たちが前進するとき、他の人々をよりすぐれた卓越さへと引き寄せねばならない。そしてこの働きが、他の人々の善を促進するためになされるなら、目には見えない代理者の協力を得る。わたしたちがその働きを忠実に続けるとき、わたしたちは義と聖潔と神についての完全な知識に対する気高い向上心を持つであろう。私たち自身はこの世においてキリストにあって完全になり、増し加わった能力をもって天の宮廷へいき、そこで高等教育を受け続ける。（原稿 108, 1898 年 9 月 1 日、高等教育）

9月2日

わたしたちの訓戒のために書かれた

「柔和な者を公義に導き、柔和な者にその道を教えられる。」（詩篇 25:9 英語訳）

神はご自分の声に聞き従う人々と共に働かれる。

神の御言がわたしたちの勧告者であり、わたしたちの経験の導き手でなければならない。もしも忠実に研究するなら、旧約聖書の歴史の学びは、これがどのようでありうるかをわたしたちに教える。昼は雲の柱に、夜は火の柱に包まれていたキリストは、イスラエルの子らが荒野でさまよっていたあいだ彼らの導き手であり光であった。ここには誤ることのない導き手がおられた。

イスラエルの子らの経験すべてにおいて、神は彼らの天来の導き手への従順と自分たちを救い出すことにおけるこのお方の力を信じる信仰を教えようとされた。エジプトでの苦難からの解放と紅海をわたったことは救うに力強いこのお方の力を彼らにあらわした。彼らが神に反抗し、このお方のみ旨に逆らったとき、神は彼らを罰せられた。彼らが自分たちの反抗に固執して、自分の道をとると決心したとき、神は彼らが求めたことを与え、ご自分が彼らに与えずにおかれた事は彼ら自身のためであったことを示された。彼らのつぶやきの結果としてやってきたあらゆる天罰は、この大群衆にとって、悲しみと苦しみは常に神の律法に対する違反の結果であるという教訓であった。

旧約聖書の歴史は後の時代に生きる人々の益となるために記された。新約聖書の教訓も同じように非常に必要とされている。新約聖書の中でもキリストはふたたび、上から来るその知恵を求め、神の形に似た品性を形作る義のうちにある教訓を得ようと求めるよう、ご自分の民を導く指導者である。旧約、新約の聖書はどちらも神の命で測るその命を確保する言葉として、神の戒めに対する従順という原則を教える。なぜならわたしたちが神聖にあずかる者となり、情欲による世の堕落から免れることを学ぶのは従順を通じてだからである。それゆえ最大限度にまでこれを研究し、その戒めに従い、金よりも尊いその原則を日々の生活の中に持ち込まなくてはならない。（手紙 342, 1907 年 9 月 2 日、南カリフォルニアの働き人へ）

9月3日

天使にまさる特権にあずかっている

「主よ、あなたがもし、もろもろの不義に目をとめられるならば、主よ、だれが立つことができましょうか。 しかしあなたには、ゆるしがあるので、人に恐れかしこまれるでしょう。」（詩篇 130:3, 4）

自分の足のために異なる道を作っている人々に対して、主は励ましの言葉を述べられる。もしも彼らが悔い改めて改心するなら、このお方は彼らの祈りを受け入れられる。キリストの無限の犠牲とこのお方のみ名を信じる信仰によって、彼らは神のみ約束を受け取る。アダムの息子たちは神の息子となることができる。人性を取られたキリストの行為によって、堕落した人間が二度目の試練を与えられるとは、どれほど感謝にあふれるべきであろうか。キリストは彼らを有利な位置に置かれた。彼らはこのお方との交わりによって神との共労者となることができる。キリストから日毎に与えられる恵みによって、彼らは神の息子、娘となるために高められ、気高くしていただくことができる。このような愛は比較するものがない。

イエスは完全な従順を求められる。そこには徹底的で実際的な働きがなければならない。わたしたちは日毎に神の御旨についての知識を増していかねばならない。キリストはへりくだって一致した働きをするすべての者に聖霊を分け与えられる。

「あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。 あなたがたは、代価を払って買いとられたのだ。それだから、自分のからだをもって、神の栄光をあらわしなさい」（コリント第一 6:19, 20）。堕落した人類を贖うために何という値が払われたことであろうか。あらゆる魂は、自分にゆだねられているタラントを向上させ、高利とともにそれを神にお返しすることができるようにと努力しつつ、神の奉仕に加わるべきではないだろうか。

「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。 わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、〔これらの教訓を学び、実践するときに〕あなたがたの魂に休みが与えられるであろう」とイエスは言われる（マタイ 11:28, 29）。もしもわたしたちがクリスチャンの生涯を送りたいのであれば、イエス・キリストに依存して自己を失いつつ、たえず神と協力しなければならない。わたしたちは毎日、永遠のためであるかのように働かなければならない。

人は天使よりも少し低く造られた。けれども彼が精錬され、天の宮廷に移されるとき、彼は天使よりももっと特権を与えられる。

あなたの兄弟姉妹が必要とするすべてのこと、わたしたちの誰でもが必要とするすべてのことは、イエス・キリストとの一致によってこのお方からいただいた力強さを品性にあらわしつつ、へりくだったクリスチャン生活を送ることである。（手紙 196, 1903 年 9 月 3 日、ある実業家に）

9月4日

争闘の中での目に見えない力

「彼は初めから、人殺しであって、真理に立つ者ではない。彼のうちには真理がないからである。……彼は偽り者であり、偽りの父であるからだ。」（ヨハネ 8:44）

わたしたちはみな、かつては天群の中でキリストに次ぐ名誉ある者であった堕落した天使がいることを理解していなければならない。彼の欺きの働きは実にひそかに行なわれたので、彼より地位の低い天使たちは彼が天の支配者であると思った。サタンは天に存在するすべての誤ったほのめかしは、天使たちのあいだで始まったと説明した。しかし、彼がそれらを造り出していなければ、決して天使たちが心に抱くことのなかったこの考えは、彼自身がほのめかしていたのであった。サタンは、神に対するこれらのことはすべてサタン自身から始まっているにもかかわらず、天使から来ているかのように巧妙に提案した。……

サタンは自分の欺きをキリストにあてこすることができなかったので、偽証とうわさでこのお方をひそかに傷つけようと決心した。天における戦いは終わって、サタンは追い出された。彼はキリストの最大の敵となり、彼の絶え間ない努力は、キリストの魂を救う偉大な働きをあらゆる可能な方法で無効にすることであった。

サタンと彼の同情者がついには神ご自身に対する公然の反逆をしているとわかるまで、キリストは天の法廷で、サタンの恐るべき誤りについて彼を納得させるために働かれた。そのときサタンは覆うことをなすケルブとしてキリストの上の立場を取る権利を主張した。サタンは天から追い出され、地球にやってきて、キリストに敵対して働くことを決心した。彼は自分が欺いた天使たちを失う危険はなかった。彼は自分の旗の下に彼らを集め、神の御子に敵対して戦うために軍隊に入れた。

キリストがこの世に来られたとき、サタンはこのお方の働きを益のないものにしようと努力しつつ、たえずこのお方の人生行路につきまとった。キリストが病人や苦しんでいる人を癒しておられるとき、サタンはこのお方の魂を救う働きをできるかぎり困難にしつつその場にいた。……

魂が納得させられ自分の危険に目覚めて「何をしたら永遠の生命が受けられましょうか」と尋ねはじめるとき、サタンは救い主の働きに逆らい、このお方の道に垣根をめぐらすために、祭司や支配者の思いを扇動するためにそこにいた。しかしキリストはたえず御自身がサタンより勝っていることを証明された。このお方はサタンの代理人たちを譴責しつつ、サタンの鎖につながれていた哀れな魂を解放し、彼らに自由に去るようにと命じられた。（手紙 292，1906 年 9 月 4 日、オーストラリアにあるシドニー療養所のD・H・クレス医師夫妻に）

9月5日

すべての真理へ導くわたしたちの導き手

「わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。」（ヨハネ 14:16）

キリストはご自身のよみがえりの後、ご自分の教会に、最高の賜物として慰め主、すなわちご自分に代わるお方をつかわすと宣言された。この慰め主は聖霊、すなわちキリストの生命の魂、ご自分の教会の力、世の光と命である。キリストはご自分のみ霊と共に和解をする感化と罪を取り除く力を送られる。

神は、あなたと神のすべての民が、聖霊すなわちキリストが送られる慰め主の働きに抵抗しないよう非常に気をつけねばならないと告げるようにと、わたしに命じられた。抵抗して僭越な最初の一歩を踏み出すことを恐れなさい。キリストが聖霊について弟子たちに語られたとき、最高に優れた概念をつかむために、彼らの考えを向上させ、彼らの期待を膨らませようと努められた。このお方のみ言葉を理解するよう努力しようではないか。このお方がわたしたちに授けられた素晴らしい賜物の価値を高く評価するよう努め、聖霊の満ち満ちた豊かさを求めよう。……

わたしは、わたしたちが「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい」というキリストのみ言葉に注意を払う以外に道を見出すことができないのを見た（マタイ 16:24）。もしわたしたちが永遠の命を得たいのであれば、わたしたちはこのみ言葉に従わなければならない。天の大能者は、たえまない自己犠牲の生涯によってこの教訓をわたしたちに教えるために、この世に来られた。わたしたちはこのお方の教えに聞き従わないのであろうか。

わたしたちは救われるために、神の事柄における満ち満ちた完全な経験を持たなければならない。罪のための贖いが無限の神の御子という賜物によってなされた。……

罪人をキリストのところへ連れて行くのは慰め主、聖霊の働きである。救い主は神なる模範、神聖の完全さの模範であり、魂を新しく形作られる。わたしたちは品性の完全に必要な美徳をすべてキリストから受けるという特権を与えられている。しかしこの美点を自分のために得るために、わたしたちはもっと自己否定と自己犠牲を示さなければならない。

キリストはわたしたちが神の子となるために、わたしたちのためにあらゆる備えをしておられる。ああ、わたしの心は、わたしたちがこのお方の満ち満ちているものから恵みにつぐ恵みを受けることのできるゆえに、このお方の聖なる御名をほめたたえよと言う。このお方のみ言葉を受けることによって完全という高い標準に到達するよう努力しよう。わたしたちを神の子、清められた美徳の持ち主とする特性を求めるときのみ、わたしたちは安全である。（手紙 155, 1902 年 9 月 5 日、バトル・クリーク・サニタリウムの裁判官と弁護士アーサー夫人へ）

9月6日

あなたは打ち勝つことができる

「わが先祖たちの神よ、あなたはわたしに知恵と力とを賜い、……わたしはあなたに感謝し、あなたをさんびします」。（ダニエル 2:23）

サタンが不思議を働くこの時代には、考えられるかぎりあらゆることが、できることなら選民をも惑わそうと欺くために語られ、行なわれるであろう。信者はサタンの力を誉めそやすことを何も言わないようにしよう。主は、ご自分の戒めを守る民がみ言葉の声に厳密に聞き従いつつ、主の御霊によって形作られ、造られ、最も清い信仰の人に築きあげられるなら、ご自身の是認のはっきりとわかる印で彼らを区別される。

神のみ前にわたしたちの魂をへりくだらせよう。このお方の栄光にひたすら目を留めて働こう。このお方への賛美がたえずわたしたちの唇にあるようにしよう。なぜなら神が授けられる恵みは日々新たにされているのだから、感謝をもってその恵みは認められるべきである。神は長く忍耐し、優しい憐れみ深い方であられる。このお方が、わたしたちの邪悪さに従い、わたしたちの愚かな間違った行動、わたしたちの移り気に従って、わたしたちを取り扱われていたなら、わたしたちはどこにいることであろうか。しかし「主はわれらの造られたさまを知り、われらのちりであることを覚えていられるからである」（詩篇 103:14）。人類はだれも悪賢い敵に自分自身で立ち向かうのに十分な能力があるわけではないことを覚えていなさい。神のうちに隠れなさい。そうすれば聖霊があなたと共におられることは確かである。主があなたの前に行かれるときのみ、あなたは敵に打ち勝つことができる。

わたしたちが主の大いなる日に、キリストをわたしたちの避け所、高きやぐらとしてこのお方と共に立ちたいのであれば、すべての妬み、最上位を求めるすべての争いを捨て去らなければならない。わたしたちはこれらの神聖でない事柄の根を、それらが再び命をもって芽を出すことができないように完全に破壊しなければならない。わたしたちは自分自身をまったく主の側に置かなければならない。……

義を求めなさい。そして全能のお方の広い盾のもとに立ちなさい。これがあなたにとって唯一安全なことである。神はあなたに心をへりくだらせてご自分を求めるようにと声を大にして求めておられる。ダニエルの祈りを読みなさい。そしてあなたの経験が火のような試練に耐えるかどうか見なさい。神はご自分の前に自分自身をへりくだらせる人々を豊かに祝福される。……

わたしたちは、神と共に歩むということが何を意味するのかを知らない人々によって、自分たちが死ぬほど冷たくなるのを許してはならない。……口論してはならない。わたしたちは平安と恵みと真理を強める言葉を語らなければならない。わたしたちは、神のみ前にへりくだって自分の心をよく探るべきである。わたしたちは兄弟を尊敬すべきではあるが、神が居られるはずの所に彼らを置くべきではない。彼らは人間にすぎないのである。（手紙 195, 1903 年 9 月 6 日、W・C・ホワイトへ）

9月7日

高ぶりは倒れに先立つ

「だから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけるがよい」（コリント第一 10:12）

ペテロが倒れる直前、キリストは「シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された」とペテロに言われた（ルカ22:31）。

ペテロに対する救い主の友情は何と真実であったことか。このお方の警告は何と憐れみ深いものであったことか。しかしその警告は憤然として受け取られた。ペテロはうぬぼれて、キリストが彼に警告したことを決してすることはないと確信をもって断言した。「主よ、わたしは獄にでも、また死に至るまでも、あなたとご一緒に行く覚悟です」。」と彼は言ったのである（同 33）。彼の自信が彼の破滅となった。彼は自分を誘惑するようサタンを誘惑し、悪賢い敵の策略に陥った。キリストがペテロを最も必要とされたときに、彼は敵の側に立ち、自分の主を公に否定したのである。……

今日多くの人が、ペテロが自信をもって主を否定しないと宣言したときに彼の立った場所に立っている。そして自分たちのうぬぼれのゆえに、彼らはやすやすとサタンの策略の餌食になるのである。自分の弱さを自覚する人々は自己よりももっと高い力に信頼する。そして彼らが神を見つめているあいだ中、サタンは彼らに対して何の力もない。しかし、自分を信頼するものは容易に打ち破られる。神がわたしたちに与えられる警告に聞き従わないなら、失敗が待ち受けている。キリストは、自発的に敵の陣地に身を置く者を痛手から救われることはない。主は、あたかも自分が主よりもよく知っているかのように振舞う、うぬぼれた者に、自分で想像している力強さのまま進み続けさせられる。そうすると苦しみやかたわの人生、あるいは破滅や死が訪れる。

戦いにおいては、敵は自分が攻撃している相手の防御の一番弱い点につけこむ。敵はここへもっとも激しい攻撃をする。クリスチャンは自分の防御に弱点を持ってはならない。聖書が、神の御旨を行なっている者に与える支えによって、バリケードを築かなければならない。誘惑を受けた魂は、「と書かれている」というみ言葉で誘惑者に立ち向かわれたお方の模範に従うなら、勝利を得る。彼ば「主はこう言われる」という守りのうちに、安全に立つことができる。……

主はご自分の子らが倒れることを許されるが、もしも彼らが間違った行為を悔い改めるなら、有利な立場に立つのを助けてくださる。火が金を精錬するように、キリストはご自分の民を誘惑と試練で精錬される。（原稿 115, 1902 年 9 月 7 日、うぬぼれの危険）

9月8日

あなたの信仰がなくならないように

「わが魂は主によって誇る。へりくだる者はこれを聞いて喜ぶであろう。」（詩篇34:2 英語訳）

あなたが魂の救いのために労するとき、罪人が自分の罪を悟って、キリストが彼らに深い思いやりを持っておられ、新たな希望が彼らの心にわきあがっている証拠をあなたが持つとき、「わたしたちが彼のために祈ったので、彼は自分の心を神にささげて救われた」と言うのは正しくない。これは人を惑わせる。厳粛に、まじめに、喜んで「イエス・キリストがわたしの罪を許してくださったとわたしは信じる」と言うことは彼らの特権である。希望と信仰を持つようあらゆる魂を励ましなさい。しかし「彼は救われた」とどの人についても……決して言ってはならない。……

さまよえる羊を連れ戻すために、忍耐強く憐れみに富んだ優しさが、間違いを犯した者に向かって示されねばならない。わたしたちには、のろいと誓いの言葉で主を否定したペテロに対するキリストの取り扱いの中にこのことの模範がある。ペテロは自分が強いと思った。彼は「主よ、なぜ、今あなたについて行くことができないのですか。あなたのためには、命も捨てます」と言ったのである（ヨハネ 13:37）。しかしイエスは彼に「あなたによく言っておく。きょう、今夜、にわとりが二度鳴く前に、そう言うあなたが、三度わたしを知らないと言うだろう」と言われた（マルコ 14:30）。けれどもペテロは力をこめて言った、「たといあなたと一緒に死なねばならなくなっても、あなたを知らないなどとは、決して申しません」（同 31）。

自慢するのは賢くない。ペテロは自分の弱さを知らなかったので倒れた。……

主はペテロに「シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。 しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」と言われた（ルカ 22:31, 32）。

サタンが自分のやりたいようにやることが許されていたなら、ペテロに希望はなかったであろう。彼は完全に信仰の破船にあっていたであろう。ペテロが熱心にまたへりくだって神の助けを求めていたなら、ひそかに自分の心を探っていたなら、試みが来たときふるいにかけられることはなかったであろう。サタンはキリストからへりくだって学ぶ者、主のみ前に祈りつつ歩む者を打ち負かすことはできない。「敵が洪水のように押し寄せるとき、主の御霊は旗印を掲げられる」（イザヤ五九ノ一九英語訳）。キリストは自ら隠れ場、避難所として間に入られる。そして、そのよこしまな者はこのお方を打ち負かすことはできない。（原稿 109, 1898 年 9 月 8 日、ペテロの失敗と回復）

9月9日

罪が許されているという自覚

「彼は必ず栄え、わたしは衰える。」（ヨハネ 3:30）

わたしたちのただなかでの実際的な宗教の欠如を見るとき、わたしは非常に悲しく感じる。自己が大きくあらわされ、キリストの精神がはっきり見えない。わたしたちには神の啓発が必要であり、日々神に献身を新たにしたいと思う。

わたしたちはなぜ罪が許されているという自覚を持っていないのであろうか。それはわたしたちが不信仰だからである。わたしたちはキリストの教えを実行せず、このお方の美徳を自分たちの生活の中に持ち込んでいない。たとえ主イエス・キリストによって分け与えられた喜びと高揚と希望がわたしたちのうちの多くの人に与えられても、それは自己称揚と自尊心を与えることになるであろう。信仰によってイエスが心のうちに宿られるとき、キリストがわたしたちに与えられた教訓が実行に移される。わたしたちは、イエス・キリストについて非常に高められた見解を持つようになるため、自己は低くされる。わたしたちの愛情はキリストに集中し、わたしたちの考えは天の方へ向かって強く引きつけられる。キリストは栄え、わたしは衰える。

思いは天の事柄を熟考するよう訓練されねばならない。イエス・キリストの麗しさをよく認識する結果としてへりくだりが生じる。キリストの品性の美徳を熟考するとき、わたしたちは罪の忌むべき性質を見て、信仰によってイエス・キリストの義をつかむ。わたしたちは、イエスのご品性の表現を他の人々に反映することができるために、イエスのうちに宿る美徳を育成するのである。わたしたちがカルバリーの十字架を見るとき、自己を高めるのではなく、自分の無価値さと、天がわたしたちの救いにどれほどの犠牲を払ったかを視野に入れ続ける。わたしたちはキリストの計り知れない愛を識別する。

多くの人があたかもそれが美徳であるかのように、長々と自分の価値のなさに思いをめぐらすことを許す。これは彼らが信仰の確信をもってイエスのところへ来るのを妨げる。彼らは自分の無価値さを感じるべきであり、そしてこのことのゆえに、すなわち自分たちの罪深さのゆえに、救い主のところに来る必要を感じなければならない。このお方は、もしも彼らが悔い改めてへりくだるなら、彼らの価値となり、彼らの義となられる。彼らの無価値さは自明の事実であり、イエス・キリストの価値あることは確かなことである。そこであらゆる疑っている魂に希望と勇気を持たせなさい。なぜなら、このお方はその人の救い主となる価値のある方だからである。救いについてのその人の唯一の希望は、信仰によって、自分にはないが、われらの義であるイエス・キリストによって供給される価値をつかむことにある。（原稿 21, 1889 年 9 月 9 日、日記）

キリストは分かたれてはいない

「そこで神は御旨のままに、肢体をそれぞれ、からだに備えられたのである。……目は手にむかって、「おまえはいらない」とは言えず、また頭は足にむかって、「おまえはいらない」とも言えない。」（コリント第一 12:18-21）

人の品性の特徴が同じでないからと言って、離れる理由にはならない。もしわたしたちが天の王の子であるならば、わたしたちはそのような不一致のために、互いの行く手を妨げてはならない。

主の僕たちの賜物が多岐にわたっているのは、主のご計画による。様々な思いを持った人々が主と共に働く働き人となるために教会に集められるのは、このお方が定められたところによる。わたしたちは、様々な思いをもった人々と会わなければならず、したがって様々な賜物が必要とされている。神の僕たちは完全な調和のうちに働かなければならない。わたしは、みな同じ精神、―キリストのうちに宿っていた精神を持っていながら、みながまったく同じではないことを主に感謝する。使徒ヨハネは、使徒ペテロとまったく同じではなかった。各々が自分の特異性を征服し、自分の気質を和らげなければならなかった。それは彼らが、真理を信じる信仰と真理の聖化を通して、互いに助け合うことができるためであった。

わたしたちの前を行くのは、キリストの義である。わたしたちが模倣（コピー）するのは、このお方のご品性である。するとどうなるか。―主の栄光がわたしたちのしんがりとなる。わたしたちの指導者がわたしたちの前を行き、そしてわたしたちがこのお方に従うとき、このお方はわたしたちにご自分の義をお与えになり、それが秩序だてられた生活と信心深い会話によって、わたしたちの生活の中に表される。わたしたちをクリスチャンにするのは信仰と行いであり、わたしたちがキリストと共に天国で座するための準備をさせる。

キリストは分かたれたのであろうか。否。魂に宿られるキリストは、他の魂のうちにおられるキリストと争うことはない。わたしたちは自分の周囲にいる人々の特異性を忍ぶことを学ばなければならない。もしわたしたちの意志がキリストの意志の支配の下にあるとすれば、わたしたちはどうして自分の兄弟たちと衝突できよう。もしわたしたちが衝突しているとすれば、それは自己が十字架につけられる必要があるからだと知ることができる。キリストが自由にして下さる者こそ、真に自由なのである。キリストがわたしたちを愛して下さったように、わたしたちが互いに愛さない限り、キリストのうちにあって完全ではないのである。キリストがわたしたちに戒めを与えてくださったように、わたしたちがこうするとき、わたしたちはこのお方のうちにあって完全であるという証拠を示すことになる。

わたしたちは預言者たちが先に告げ、使徒たちが宣布した信仰―愛によって働き、魂を清める信仰―を持たなければならない。（手紙 141, 1902 年 9 月 10 日、S・N・ヘスケル長老へ、ニューヨークの都市伝道において）

9月11日

安定している

「わたしは手本を示したのだ。」（ヨハネ 13:15）

わたしたちは天のために品性を形成している。どの品性も試練や苦悩なしには、全うされ得ない。わたしたちはテストされなければならず、また試されなければならない。キリストは、わたしたちのために品性のテストに耐えてくださった。それは、ご自分がわたしたちにもたらしてくださった神の力を通して、わたしたち自身がこのテストに耐えることができるためであった。キリストは忍耐と寛容と柔和と思いのへりくだりにおいて、わたしたちの模範であられる。このお方は不信心の全世界と敵対し、また戦っておられたが、良いわざの見返りに不面目な虐待を受けても、言葉や行動において激情や暴力を表すようなことはなさらなかった。このお方は苦しめられた。このお方は、拒まれ、侮辱的に扱われた。しかし、このお方は復讐なさらなかった。このお方は自制と尊厳と威厳を保っておられた。このお方は静かに耐え忍ばれ、虐待に対して、ただ同情と憐れみと愛をお与えになったのであった。……

これらのことにつけ、あなたの贖い主を模倣しなさい。事態が悪くなったときに、興奮してはならない。あなたが想像したとおりに事が運ばないからといって、自己が台頭し、自制を失うことを許してはならない。他人が悪いからと言って、あなたが悪いことをする言い訳にはならない。二つの悪が、一つの正を生み出すことはない。あなたはキリストが勝利なさったように勝利するために、獲得すべき勝利がある。

キリストは決してつぶやかれなかったし、また不満や不機嫌あるいは憤りを口にされたことはなかった。このお方は決して落胆したり、くじけたり、心を乱したり、いらだったりなさらなかった。このお方は、最も興奮した状況下の試みの時でも、忍耐強く、静かで、冷静であられた。このお方のすべてのわざは、周囲にどんな騒ぎがあっても、静かな威厳と落ち着きをもってなされた。賞賛によって意気高揚することはなかった。このお方は敵の脅かしに恐れることはなかった。このお方は興奮と暴力と犯罪の世界のただ中を、あたかも太陽が雲の上を動いていくように、行動された。人間の激情と動乱と試練は、このお方の下にあった。このお方は太陽が万物の上を渡っていくように進まれた。しかし、このお方は人間の悲哀に無関心ではおられなかった。このお方の心はいつも、ご自分の兄弟の苦しみや必要に、あたかもご自身が苦しんでおられるかのように同情なさった。このお方には静かな内なる喜びと穏やかな平和があった。このお方の意志はいつでも天父のご意志に没入された。わたしの思いのままにではなく、みこころがなりますように、と言うのがこのお方の青ざめた震える唇から聞かれた。（手紙 51ａ，1874 年 9 月 11 日、エドソンおよびエマ・ホワイトへ）

9月12日

クリスチャンは今

「そこで、子たちよ。キリストのうちにとどまっていなさい。それは、彼が現れる時に、確信を持ち、その来臨に際して、みまえに恥じいることがないためである。」（ヨハネ第一 2:28）

多くの人々がときどき、本気でクリスチャンになりたいと思うが、ただちに始めようとしない。……あなたの生活の最もよい部分を敵に与えることによって、あなた自身が多くのものを失うばかりではなく、あなたは自分の子供たちを永遠の事物をなおざりにして育てているのである。彼らにはまったく悪いあなたの模範がある。あなたの怠慢は、子供たちが神のご要求を愛し、敬い、従うようにと、あなたが彼らに与えることを義務となさったまさにその知識を、彼らから奪っているのである。……

あなたの小さい子供たちは、年長の人々のいるところではお利口にし、よく言うことを聞いている。あなたは自分が考えるように彼らも考え、自分が行動するように彼らの思いを形作っており、宇宙の統治者にひざまずくようには形成していない。なぜなら、あなたがそうしないからである。あなたが神に屈服しない限り自分自身の魂を失うと考えること、またあなた自身が救いの戸から入っていないと考えることは、それだけでもゆゆしいことであり、恐ろしいことである。しかし、さらに恐ろしいことはあなたが自分の子供たちが入る道をふさいでいると考えることである。……いったん、あなたの威厳や社会的立場を全部忘れて、あなたの子供たちの前で、キリストの学校で学ぶ者として出直しなさい。彼らにありのままに、自分自身を神の子として認めることを怠たる間違いを犯したと告げなさい。彼らにあなたが家族の一員として、神のために生き始めることを望んでいることを告げ、彼らに読んで聞かせ、あなたの子供たちと共に祈りなさい。……

あなたはイエスのうちに休息と平安を見出したときにのみ、それを持つことができる。世とその格言とその慣習は、数知れないほど多くの苦しみの生みの親である。多くの人々が満たされない願いに苦しんでいる。彼らは自ら重荷―自分たちの満たされない願望―に束縛されている。神と調和しておらず、良心の呵責を感じ、このお方のご不興と怒りを案じて、彼らの存在は絶えざる不安となっている。苦しみにおける天の慰めが欠乏している。彼らは刑罰を恐れている。そこには将来の恐るべき前兆がある。……

魂のために贖い代、無限の犠牲が与えられた。反逆の者たちのために君主なるお方が死なれたのである。それは、彼らが罪、堕落、悲惨をまぬかれることができるためである。彼らはみな、神の御子の大いなるへりくだりを通して、許しと純潔と天を受けることできる。……

恵みの優しい声が、あなたを招いている間に来なさい。（手紙 26, 1879 年 9 月 12 日、ある夫と妻に対する個人的な証）

9月13日

あなたの言葉に気をつけなさい

「書いてある……また書いてある……書いてある。」（マタイ 4:4-10）

かつては神から誉れを受けてきたある人々は、敵の欺瞞によってわなにかけられてきた。彼らは自分たちの危険を警告されてきたが、自分たちに送られた警告を聞くことを拒むことによって、ますます欺かれるようになり、ついには主と主の働き人たちに敵対して戦うようになったのである。

永遠の真理の岩のうちに立っている人々は、ときどき非常に断固とした行動をとることが要求されるような反対に直面する。そのような時には、一つ一つの言葉を注意深く考察しなさい。さもなければ、あなたは助けたいと思っている人々の魂を傷つけてしまうからである。あなたの舌にくつわをはめておきなさい。神はあなたに自分の兄弟たちをさばく働きを与えてはおられないことを覚えていなさい。

神のみ言葉から、可能な限りの慰めと励ましを集め、これを困惑や困難と苦闘している魂に示しなさい。しかし、決して欺かれている人々に対して、きつく非難してはならない。……

荒野で敵と対面されたとき、彼の邪悪なほのめかしに対するキリストの応答は、「と書いてある」であった。サタンがさしでがましくも全世界の所有権を主張し、キリストに自分を神として礼拝するように求めたとき、言葉一つで御使たちの援軍を招集できたお方は、ただ「サタンよ、退け。『主なるあなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ』と書いてある」と仰せになっただけであった（マタイ 4:10）。この争闘の激しさを、わたしたちは一部しか理解していない。救い主は、あたかも戦場で死んでおしまいになるかのように見えた。しかし、このお方は狡猾な敵に耐えられた。非常に注意深く選ばれたこのお方のみ言葉は、もろ刃の剣のように鋭かった。サタンは完全に撃退された。彼は命の君は、いかなる詭弁にも欺かれることはあり得ないことを知った。

わたしたちは今戦場に立っている。……

神のみ言葉をわたしたちの研究課題としよう。……

キリストを信じる人すべてに、キリストは神の子となる力をお与えになる。このように王家の一員と称される人々は、自分たちの罪のための贖いの供え物であられるお方のために生きるのである。彼らが真理を知るにつれ、彼らの足は確かな土台にすえられる。洪水も嵐も彼らの土台をさらうことはできない。（手紙 289, 1905 年 9 月 13 日、「伝道の働きをしているわたしの兄弟たち」へ）

キリストのような愛を培う

「いのちを愛し、さいわいな日々を過ごそうと願う人は、舌を制して悪を言わず、くちびるを閉じて偽りを語らず」（ペテロ第一 3:10）

クリスチャンの親は、自分が神の小さな子供の一人であり、また礼儀正しく同情する気質を培わなければならないという自覚を決して失うべきではない。それは親が教育者であるためである。親は子供たちに対してイエスを代表しなければならない。彼らを取り扱うにあたって、性急さが見られたり、あるいは心の中の愛を凍らせてしまうような冷たい氷のような威厳が見られたりしてはならない。子供の心がやわらげられ、従うものとなり、キリストの愛と恵みを受け入れる準備ができるように、親は親切で優しくなければならない。クリスチャンは、老若問わずだれかに、荒々しい言葉を語ってはならない。そのような言葉は敵によって促されたものである。……

神のみ言葉の中で、わたしたちは親切で、優しく、同情深く、また礼儀正しくあるようにと教えられている。キリストのような愛を培いなさい。あなたのなすすべてのことにこの愛の印章が押されているようにしなさい。キリストの言葉を語らず、そのわざをしない人々は、天へ門を通らずに別の道から上ろうとしているのである。……

あなたの冷たい、キリストのようでない威厳を保とうと努力してはならない。これは宗教ではなく、キリスト教でもない。あなたが必要としているのは、キリストの顔に輝く光が、このお方の愛の明るさであなたの顔も輝くようにさせることである。あなたの厳しい威厳を脱ぎなさい。神はあなたにそのようなものを大事にするようにとは命じておられない。あなたの心をキリストの愛で満たしなさい。そのときキリストのような同情があなたの顔から輝き出るようになる。……

神やそのみ力を信じる信仰を持たずに、聖なる事柄に奉仕している人々がいる。彼らは自分自身の手段で救いを獲得しようと努力を増し加えている。自分自身を義認し、悪の下降の潮流にあらがって踏みとどまろうとする彼らのむなしい努力の何と哀れなことであろう。彼らは無力である。なぜなら、彼らは神を自分たちの頼みとしていないからである。……

神は、永遠にして被造物ではない、あらゆる善の源泉である。このお方を眺め、このお方に信頼する人はみな、このお方がそうであることを見出す。ご自分を自分の天父としてよりすがり、ご自分に仕える人々に、神はご自分の約束を果たすとの保証をお与えになる。このお方の喜びが彼らの心のうちにあり、彼らの喜びは満ちるようになる。（手紙 203, 1903 年 9 月 14 日、「ナッシビル印刷所の要職にある人々へ」）

9月15日

もしユダが悔い改めていたとすれば

「わたしのパンを食べている者が、わたしにむかってそのかかとをあげた」（ヨハネ 13:18）

キリストにはご自分を救出なさる力があった。このお方が〔ゲッセマネで〕「わたしがそれである」と仰せになったとき、ただちに御使たちがこのお方を取り囲んだ。そして、群集にはキリストが神の力であられるという可能な限りの、もしくはあらんかぎりの証拠があったのである。その殺人的な群集がよろめき、体を支えようと宙をつかみ、どうしようもなく地面に倒れ伏したとき、彼らを無力に倒れたままにしておき、彼らの間から無傷で去っていくことは、キリストにとってたやすいことであった。ご自分の輝きと栄光をひらめかせることによって、このお方は彼らを消滅させることがおできであった。ユダはこれを期待していた。なぜなら、キリストは何回も脱出してこられたからである。……

ユダが、そのときでさえ、最後まで自分の憎しみと目的にしがみついていたことは、不思議ではない。もし彼がそのときに悔い改めていたら、もし彼がこの最後の瞬間に告白していたら、もし彼の裏切り者の心が砕かれていたら、彼は許しを受けたのである。しかし、悪魔的な抵抗は、与えられ抵抗されてきた光に比例して、増し加わる。嘆願や、来るべき危険と危機の警告は、ユダの目的を変えなかった。なぜなら、彼の心が変わらなかったからである。光と証拠を目の前にしながら、彼は自分自身の道に従い、自分自身の意志を行う決心をかためた。キリストの長い忍耐や、ついに神の唇から彼に語られ、やさしく与えられた譴責は、彼のかたくなな心を砕かない。彼は自分の長い抵抗によって自分の心をかたくなにする。彼は自分の歩みがどちらに向かおうとしているかを悟るが、悪魔の使いたちが彼の四方を取り囲み、彼には彼らのわなから自分を救う力がない。あまりに長く人間の属性をもち続け、光に服することを拒んできたために、彼はあらゆる結果に対して盲目になる。

ユダだけが、この経験を経てきた人ではない。……

ユダは価値ある資質を持った人物であった。しかし、彼はよく教えを受ける者ではなかった。……

ある人が天からのメッセージを担っている人々と接触を持ち、真理を聞きはしたが、実行しないとき、その真理は彼にとって、注意を払う価値のないものということになる。ユダの場合がこれであった。

人は真理を信じなければならない。自分の上に輝く光に調和して、自分自身の一連の行動を変えなければならない。（原稿 100, 1897 年 9 月 15 日、「キリストの拘束」）

9月16日

イエスをその言葉通りに信じる

「何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。」（ピリピ 4:6）

わたしはあなたの事情を目の前にし、あなたが思いのうちに悩んでいることを悲しんでいる。わたしは自分の力でできるならあなたを慰めたいと思う。尊い救い主なるイエスは、これまで何度もあなたにとって必要なときのいと近き助けではなかったであろうか。聖霊を悲しませてはならない。くよくよするのをやめなさい。これはあなたがこれまで何度も他の人々に語ってきたことであった。あなたのように病気ではない人々の言葉があなたを慰め、主があなたを助けてくださるように、というのがわたしの祈りである。

もしあなたが死ぬことが主のみこころであるとすれば、あなたは自分の全存在―体、魂、そして霊―を正しく憐れみ深い神のみ手におゆだねするのがあなたの特権であると感じるべきである。神はあなたが想像するように非難の気持ちを持っておられるのではない。わたしは主があなたを愛していないと考えることをあなたにやめてほしいと願う。神のなされた憐れみ深い備えに余すことなく自らをあずけなさい。……

あなたは神があなたを厳格に取り扱われなければならないようなことを自分がしたと感じる必要はない。このお方の愛を信じ、そしてそのみ言葉どおりにこのお方を信じなさい。……

このお方はあなたが信じ、その信仰を態度に示すことを望んでおられる。キリストはご自分の生涯において、わたしたちがみな持つようにと願っておられる品性の麗しさの実例を与えて下さった。……信頼しない疑念が、わたしたちの思いを捕らえてはならない。神の偉大さに不安を覚えて、わたしたちの信仰を混乱させるようなことがあってはならない。神がわたしたちを助け柔和と心の低さのうちに、自らをへりくだらせて下さるように。

キリストは人類と交わり、人類が完全になれることを示すために、ご自分の王位と王冠をわきに置かれた。憐れみの衣を装い、このお方はわたしたちの世界で、ご自分の愛の証拠をわたしたちに与える完全な生涯を送られた。このお方は、ご自分を信じない不信仰を、不可能なものとなさった。天の宮廷でのこのお方の高い指揮官の座から、このお方は人性をまとうために身をかがめられた。このお方の生涯は、わたしたちの生涯がどのようになれるかという実例である。神の偉大さに不安を覚えて、神の愛を信じるわたしたちの信仰が消されてしまってはならない。キリストは悲しみの人で病を知っておられた。人間の心は、このお方に明け渡されると、聖なる音楽を奏でる聖なる琴となる。（手紙 365，1904 年 9 月 19 日、肺病で死んだエレン・ホワイトの文書アシスタントの一人、マリアン・デイビスへ）

9月17日

人類すべて兄弟である

「この世界と、その中にある万物とを造った神は、……また、ひとりの人から、あらゆる民族を造り出して」（使徒行伝 17:24-26）

神は人類に愛の無限の深さを示してこられたのに、わたしたちがこの愛を感謝することの何とまったく足りないことであろう。キリストは罪人が罪の奴隷状態から贖われ、神のみ前に有利な立場におかれることができるように、カルバリーの十字架上で死なれた。天父がこの犠牲を払うことによって表された驚くべき愛について考えてみなさい。囲いの外にいる人々に、この愛を指し示し、キリストが罪人のために何をして下さったか、また彼らがこのお方の変える恵みを通してどのようになれるかを彼らに語ることが、わたしたちのなすべき分である。

わたしたちは、なされるすべてのことにおいて主のみ名に栄光が帰せられ、このお方の働きが前進するようにと願う。賢明な指導力が今現在ほど必要とされてきたことは、かつてなかった。人間の偏見は神に由来するものではない。衝動に導かれるのは非常に危険である。人間の衝動は、貧弱なものであって、聖化された理性に取って代わることはできない。

主イエスは非常な関心をもってすべての魂をご覧になっている。このお方はご自分の教会の霊的な性質が注意深く保たれなければならないと宣言なさった。教会は世の中にあり、世のための働きをなさなければならないが、教会の戸は世俗に対して開かれてはならない。「わたしの天の父がお植えにならなかったものは、みな抜き取られるであろう」（マタイ 15:13）。教会は厳密に守られなければならない。その神聖な性質が実例を通して世に表されなければならない。「あなたがたは神の畑であり、神の建物である」（コリント第一 3:9）。「恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい。あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである」（ピリピ 2:12, 13）。……

今日、真理があらゆる国民、部族、国語、民族に宣布されなければならない。キリストはわたしたちが偏見を生じさせないような方法で働くことを望んでおられる。なぜなら、偏見が起こると、ある者は真理を聞くことから閉ざされてしまうからである。……

わたしたちは、まだこうした障壁の存在するこの世にいる。そしてわたしたちはあらゆる階級の人々に伝えられる方法で働かなければならない。現在の障害があなたを悩まし、神を信じるあなたの信仰と信頼を破壊してしまわないようにしなさい。（原稿 114, 1904 年 9 月 17 日、「有色人種のための働きに関する指示」）

過ちに陥っている人を決しておとしめてはならない

「善人はよい倉から良い物を取り出し」（マタイ 12:35）

あなたが共に働いている人々が確かに不忠実だという間違いようのない証拠がない限り、彼らを不忠実なものとして扱ってはならない。そしてある働き人の不忠実が明らかになったときでさえ、あなたは彼が「あなたは辛らつであった」と言わせるすきを与えるようなやり方で彼を取り扱ってはならない。あなたは誤っている人を怒らせるようなことを何もしてはならない。信者も未信者も心の最悪な感情を引き起こすようなやり方で圧迫してはならない。残酷なまでに不当かもしれない責めを負わせてはならない。そのような行為によって、あなたは魂を破滅へと駆り立ててしまうかもしれないのである。……

自分の働きにおいて、あなたはキリストの同情を表すべきである。あなたの言葉はこのお方の同情の表現であるべきである。あなたはカナンの言葉を話すべきである。あなたはもはや世のものではない。あなたは世から出てきた者であって、その方法や慣習から分離しなければならない。言葉と行為において、あなたは神の愛のご目的をあらわさなければならない。あなたはいつも自分の働き人仲間を、敬意をもって扱うべきである。……

キリストのために奉仕している人は、自分と接触するすべての人々に神の御霊の恵みをあらわすとき、ただ自分の義務を果たしているにすぎない。しかったり怒ったりした言葉が一言でも聞かれてはならない。なぜなら、そのような言葉は、キリストを辱め、クリスチャンの名を汚すからである。指導者として奉仕に携わる人の義務の一部は、いかにして自らを治めるかを学ぶことである。

主イエスは人間をご自分の器として選ばれた。彼らはこのお方のご目的を実行しなければならない。カルバリーの十字架上でのこのお方の死は、このお方のへりくだりのクライマックスであった。贖い主としてのこのお方の働きは、有限な概念を越えている。自己に死んだ人々、その命がキリストと共に神のうちに隠れされている人々だけが、堕落した人類を救うためにささげられた捧げ物の完全さの概念をいく分かでもとらえることができる。

日常生活の中で、わたしたちはキリストの模範に従わなければならない。そのとき、宗教生活に、理解を超える平安がもたらされる。わたしたちは人からの賞賛や誉れを得るような仕事や事業に携わるべきではない。わたしたちは、ご自分の敵たちを救う特権を買い取るために十字架上で恥辱の死を遂げられたお方について、ほかの人々の理想がその思いの中で低められるような言葉を語ったり、行動をとったりしてはならない。（手紙 196, 1901 年 9 月 18 日、セント・ヘレナの管理者へ）

9月19日

いかにして天国をここで得るか

「望んでいたのは、もっと良い、天にあるふるさとであった。」（ヘブル 11:16）

わたしたちは神がわたしたちに与えて下さったすべての力を尽くして、聖書を闇のうちにいる人々に解き明かそうと努めたいのである。ここに気落ちした者のための幸福と希望と平安がある。わたしたちは神から与えられた能力を、この地上の平凡な事柄に与え、ささげてしまうようなことはできない。わたしたちは福音の中にわたしたちの前に置かれている約束をつかむ信仰を欲している。わたしたちが自分の魂を失うようなことになれば、どうであろう。それよりは、わたしたちは生まれてこないほうがよかったのである。一人の魂には、この地上に積み上げられる一切の金銀以上の価値がある。……

わたしたちは神を信じる生きた信仰を培いたい。わたしたちは自分たちの目をこの世の魅惑から引き離し、天と天の事柄に集中させたいのである。わたしたちは地上が自分たちと神との間に介入することを望まない。そうではなく、わたしたちは神の栄光一すじに目を留めたいのである。わたしたちは天とその祝福について語っており、そしてそれを失うということは大変な損失となる。そうであれば、すなわちもしそれが大変麗しく望ましいものであれば、それをこの生活に持ち込み、あなたの家族のうちに持ち込み、あなたの子らがこの世のためではなく、将来の不死の生涯のために生きるように教育しなさい。……

もしあなたが神に目を留めて、半分はキリストを見て、もう半分は世を見るようなことをしなければ、この地上に小さな天国を持つことができる。すなわち、あなたが神のために生きているならば、このお方はご自分のとこしえのみ腕をあなたの下にいれ、そして「わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽い」と仰せになる（マタイ 11:30）。あなたはこれを信じるであろうか。わたしはこれが事実であると証することができる。わたしの過去の経験によって、わたしは一つの試練でも少なく、あるいは一つの悲しみでも少なくあってほしいとは望んではいないと証することができる。なぜなら、パウロは「このしばらくの軽い患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させるからである。わたしたちは、見えるものにではなく、見えないものに目を注ぐ。見えるものは一時的であり、見えないものは永遠につづくのである」と言っているからである（コリント第二 4:17, 18）。わたしたちは永遠の利益のある事柄を眺めたいのである。それは、わたしたちが自分たちの理性の力をどのように用いたか、すなわちわたしたちが、それらをつまらない事物のために用いてはこなかったかに関して、真剣に考えることができるためである。それらのものは、空中でキリストとお会いするために上げられるときには自分たちと共に携えていけないのである。……

わたしたちは神の都に入る恵みが豊かに与えられるのにふさわしい者となりたい。……これに比較するとき、他のすべてのものはまったく重要でない。（原稿 16, 1886 年 9 月 19 日、「クリスチャンになるという特権」）

9月20日

キリストは道である

「ピリポはイエスに言った、『主よ、わたしたちに父を示して下さい。そうして下されば、わたしたちは満足します』。イエスは彼に言われた、「ピリポよ、こんなに長くあなたがたと一緒にいるのに、わたしがわかっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのである。」（ヨハネ 14:8, 9）

わたしたちは捜索によって神を見出すことはできない。しかし、このお方はキリスト、すなわち、み父の栄光の輝き、その本質の真の姿のご品性のうちにご自分を表してこられた。もしわたしたちが神の知識を望むなら、わたしたちはキリストのようにならなければならない。……

ますますキリストのようになろうと日ごとに努力しない人は、神のご品性を知ることができない。個人的な救い主としてキリストを信じる信仰を通して純潔な生涯を生きることによって、信者は、神についてますますはっきりと高尚な概念を持つようになる。品性が高尚でなく、キリストのようでない人はだれも正しい光のうちに神を表すことができない。彼はキリストを説教することはできるかもしれないが、キリストが自分の心の中の常客であられることを、自分の聴衆に示してはいないのである。……

真理を受け入れることによって、キリストの愛にあずかる人々は、神の愛のメッセージを誤謬の中にいる人々に伝えるための熱心で自己犠牲的な努力によって、その証拠を示すのである。こうして彼らはキリストと共に働く共労者となる。神に対する、また互いに対する愛は、愛という金の環によって魂をキリストに結びつける。聖化され高尚にされた結合のうちに、魂はこのお方に結び付けられる。

真の聖化は信者をキリストと、またお互いに優しい同情の絆で結ぶ。この結合は、キリストの豊かな愛の潮流が絶えず心の中に流れ込むようにさせ、この流れはふたたび互いを愛する愛のうちに流れ出ていくのである。

すべての人にとって持つことが重要な資質というのは、キリストの品性の完全さを際立たせていたものである。すなわち、このお方の愛、このお方の忍耐、このお方の無我、そしてこのお方のいつくしみ深さである。……

人は、自分の兄弟を愛するキリストのような愛を持たずに、永遠の命をもたらす信仰を持つことができると考えるのは、最大にして最も致命的な欺瞞である。神と隣人を愛する人は、光と愛に満たされている。神が彼のうちにおられ、彼を取り囲んでおられるのである。クリスチャンは自分たちの周りにいる魂を、キリストがそのために死なれた魂として愛する。愛のないクリスチャンというものは存在しない。なぜなら、「神は愛である」からである。（原稿 133, 1899 年 9 月 20 日、「神の律法の重要性」）

9月21日

神は個性のあるお方である

「信仰によって、わたしたちは、この世界が神の言葉で造られたのであり、したがって、見えるものは現れているものから出てきたのでないことを、悟るのである。」（ヘブル 11:3）

全自然界は、生ける神のみわざの証を担っている。自然は神、すなわち万物の創造主からわたしたちに与えられた、わたしたちの教科書である。これらの自然の事物が神だと呼ばれてはならない。それらは神のご品性の表現であって、それらが神なのではない。このお方の被造物によって、わたしたちは神とその愛、そのみ力と、その栄光を理解することができる。しかし人には自然を神として拝む大きな危険性がある。

人類の芸術的な技能は、美しい作品の非常に繊細な見本を作り出し、目を楽しませる物を見せる。そしてこれらの物によってそれを作ったデザイナーをいく分か知ることができるが、その作られた物は、人ではないのである。賞賛されるべきなのはその作品ではなく、そのように尊ばれる物をデザインした人である。自然についても同様である。主の力はたえず、奇跡を働く力として表されている。それは人類家族が造られた事物を越えたかなたに、無限を見ることができるためであり、彼らが人という存在を形づくられたお方が、自然界のあらゆる美しいものをもまた創造なさったということを知ることができるためである。

今日わたしたちの世界には、創造主は個性を持つ神ではないということに関して、たくさんの発行物がある。神は実存する存在者であり、人はこのお方のみかたちに造られたのである。神がご自分のかたちに人を創造なさったのち、そのかたちはあらゆる配置において完全であったが、そこには生命力がなかった。そこで個性を持ち、自存なさる神はそのかたちに命の息を吹き込まれ、そして人は生きた、呼吸をする、知的存在者となったのである。人間機構のあらゆる部位は、活動を開始した。心臓、動脈、静脈、舌、手、足、思いの知覚力、五感は身体の法則の下におかれた。そのとき、人は生きる魂となった。

イエス・キリストを通して、神―香りでもなく、何か実体のないものでもなく、個性を持っておられる神が人を創造なさり、そして彼に知力と力をお授けになったのである。……

主は生きた個性のある神であられる。生きておられ、個性のある救い主がわたしたちの世界に来られたのは、もっともらしい曲解や、サタンの蛇のような誤謬を無効にするためであった。（原稿 117, 1898 年 9 月 21 日、「個性のある神」）

9月22日

あなたは死から命に移されたか

「わたしたちは、兄弟を愛しているので、死からいのちへ移ってきたことを、知っている。愛さない者は、死のうちにとどまっている。」（ヨハネ第一 3:14）

わたしはわたしたちのお互いの関係に関する神のみ言葉の確固とした宣言が、いかに正しく理解されていないかを考えていた。人間の心には自分自身に思いを集中させる利己心がある。そして神とつながりがあるように見える人々〔のうちに〕さえ、わたしたちはときどき彼らの思いがいかに自分自身に集中し、他人の必要を見もしないし、感じてもいないのを見て苦痛を感じるのである。わたしたちは人類という大きな網のうちにいるように共につながっており、そしてわたしたちのあらゆる互いの交わりの中で、わたしたちはキリストの思いを持つことを求めるべきである。困窮し、滅びようとしている人々に目を閉じること、罪人が警告されないままに放置され、そして無関心と利己心によって、彼らが「だれもわたしの魂を心に留めてくれない」と言うように誘惑することは、神を辱め、神のみ働きを汚すことである。わたしたちの働きは最も聖なる信仰のうちに互いに築き上げていくべきものである。

もしわたしたちの間にそのような完全な調和が存在していなければ、わたしたちは自分自身この問題に関してまったく責任はないと感じるべきではない。もしだれかの思想や感情がわたしたち自身と同じように流れていない場合、まったく間違っているのは彼らで、自分たちは正しいと感じるべきではない。わたしたちは絶えず思いを適切に保ち、ヨハネ 17:21-23 にあるキリストの祈りに答えるようにしたいのである。わたしたちは、この時代にキリストがわたしたちに負うようにと命じられたくびきと、わたしたちに担うべきだと命じられた重荷が何であるかを知り、そして絶えず親切と愛のうちに、自分の兄弟に関心を持っていることをその人に示そうと努め、日ごとにわたしたちの行動に愛を持ち込みたいのである。これが火の中で練られた金―信仰と愛である。もしわたしたちがあやまちの中にいる人を見たならば、わたしたちは黙って見過ごしてしまうのではなく、その人を闇から光の中へ連れ出そうとしなければならない。わたしたちは互いの利益を自分自身の利益のように守らなければならない。わたしたちは、魂の価値を評価すべきようには評価していない。わたしたちは一つの大きな兄弟愛の中で結合し、互いの欠点をあらゆる寛容と柔和をもって耐えることができるような場所にいて、お互いの荷を担うように求めなければならない。（エペソ 5:1, 2 参照）。

さて、あなたはこれは牧師の働きだと言う。しかしこれはわたしたち各自の働きでもあるのである。（原稿 13, 1886 年 9 月 22 日、「クリスチャンの兄弟愛」）

9月23日

このお方はつねにわたしと共におられる

「もし、ほかのだれもがしなかったようなわざを、わたしが彼らの間でしなかったならば、彼らは罪を犯さないですんだであろう。しかし事実、彼らはわたしとわたしの父とを見て、憎んだのである。」（ヨハネ 15:24）

あらゆるキリストの奇跡はこれらのユダヤ人指導者たちが無視し、さげすみ、助けることを拒んだ人々を祝福するためになされた。そしてこのお方は〔一般の人々から〕愛された。なぜなら、このお方は回復者であり、偉大な医者であられたからである。このお方の恵みはことごとく天からの光であった。すべての良いわざにおいて、このお方は彼らがご自分を彼らの個人的な救い主として受け入れるように導いた。このお方の生涯は芳しく、命から命へと至る香りであった。このお方は心と家庭に日光をもたらされた。彼らは嘆きながらこのお方の許にやってきて、讃美とうれしい喜びとをもってこのお方を去っていった。このお方は彼らがその心の中にご自分を宿らせることができるように、ご自身を彼らに捧げられた。

それでもなお、彼ら〔ユダヤ人指導者たち〕はこのお方を受け入れようとしなかった。彼らは律法を守っていると主張していたが、彼らは自分たちの行いによって、それを否定していた。彼らは目がありながら、自分たちの心がかたくなためになために彼らのうちにあった無知のゆえに見ることをしなかった。彼らの心の不純、彼らの生活の汚れた習慣、彼らの利己心、彼らのねたみ、彼らの嫉妬、彼らの邪推、彼らが神の律法を守っていると主張しながら行う律法の違反が、絶えず彼らの品性に関して証を担っていた。実によって木は知られる。キリストは彼らの真の品性をあらわになさった。このお方は彼らが「人間のいましめを教として教え」ていると宣言なさった(マルコ 7:7)。またこのお方は「聖書も神の力も知らない」と仰せになる（同 12:24)。

「心の清い人たちは、さいわいである、彼らは神を見るであろう」（マタイ 5:8)。彼らはどのようにして神を見るのであろうか―それはエノクが神を見た方法によってである。彼らは神と共に歩み、語る特権を持っている。信仰によってエノクは神のみ前に三百年間生きた。信仰によって、彼はイエスの信仰を見た。彼は神の特別な恩寵に入れられた。祭司や役人たちはちょうどエノクが持っていたような経験を必要としていた。彼らは絶えずご臨在を自覚している必要があった。ああ、主は恩寵を与えておられたご自分の民に、何という恵みの富を与えたいと切望しておられたことであろう。それは彼らのために備えられた婚宴への召しの中に表されている。「すべての用意ができました。……おいでください」（マタイ 22:4)。（原稿 96, 1897 年 9 月 23 日、「キリストを拒んだユダヤ人」）

9月24日

神のパートナーたち

「だから、植える者も水をそそぐ者も、ともに取るに足りない。大事なのは、成長させて下さる神のみである。」（コリント第一 3:7）

わたしたちは個々人が神との協同組合のうちにいるのだということを理解する必要がある。「恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい」とこのお方はわたしたちに訓告し、さらに加えて、「あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされるところだからである」と仰せになる（ピリピ 2:12, 13）。ここに神と人間の代理者の協力がある。……

前と後の雨が必要とされている。「わたしたちは神の同労者である」（コリント第一 3:9）。主だけが尊い前と後の雨を与えることがおできになる。雲、日光、夜露―これらは天の最も尊い供給である。しかしこれらの恵み深く天から与えられる恩典も、自分たちの側の勤勉な骨折りの努力によってそれらを自分のものとしない人々にとっては、ほとんど価値がないことがわかるであろう。個人的な努力が農業においてなされなければならない。耕作に次ぐ耕作がある。道具が持ち込まれて、人間の技能がそれらを用いなければならない。種はその季節に蒔かれなければならない。種まきと収穫の時を支配する法則が守られなければならない。さもなければ収穫はないのである。……

使徒は他の比喩を取り入れている、「あなたがたは……神の建物である」（九節）―建てられるべき構築物であると。建物の建築には、神が人間の幸福と祝福のために育つようになさった樹木を用いる際に技能が要求される。主は森の木々を備えられたが、今度は人がそれらを用いなければならないのである。樹木は切り倒され、のこぎり、斧、くさび、槌によって整えられ、建物に合わせられなければならない。……

このようにして人間と神の協同組合が表されている。すべての力は神からのものである。「わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである」とキリストは仰せになる（ヨハネ 15:5）。そうであれば、わたしたちにとって何時間くらい一人で働こうとしても安全であろうか。神から出るすべての栄光は、あらゆる可能な方法によって、わたしたちの神との協力を通して、神に流れ帰らなければならない。……

わたしたちは自分たち自身の霊的な利益を注意深く考慮する必要がある。もしわたしたちがキリストのうちに宿っているなら、わたしたちは、野心的な商売の取引を許しはしない。わたしたちの兄弟との交わりを特徴づけるべき霊的な香りの前に出るための、このお方へ捧げるわたしたちの奉仕においてさえも。（原稿 182, 1897 年 9 月 24 日、「あなたがたは神の畑である」）

9月25日

わたしたちが最も必要とする神の恵み

「わたしが福音を宣べ伝えても、それは誇にはならない。」（コリント第一 9:16）

本物の改心はわたしたちを日ごとに神との交わりに入れる。誘惑に会うであろうし、またわたしたちを神から、以前の無関心と罪深い神への忘恩の状態へと引き戻す強力な底流があるであろう。どんな人の心も神の恵みなく強くあり続けることはできない。だれ一人、自分自身に気をつけ、また主人が彼を心にかけて下さらなければ、改心し続けたままでいることはできない。心が神を堅くつかんでいない限り、そして神が彼を堅くつかんでいてくださらない限り、彼は自信を持って自分を高めるようになり、必ずつまずき倒れるようになる。信仰を通しての神の力が、パウロのよりどころであった。彼は謙遜のうちに叫んだ。「生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである」（ガラテヤ 2:20）。「そこで、わたしは目標のはっきりしないような走り方をせず、空を打つような拳闘はしない。すなわち、自分のからだを打ちたたいて服従させるのである。そうしないと、ほかの人に宣べ伝えておきながら、自分は失格者になるかも知れない」（コリント第一 9:26, 27）。

パウロは、自分の悪い傾向が彼のより良いところに勝ってしまうのではないかと、絶えず恐れていたので、絶えず、断固とした抵抗をもって、制御されていない食欲や情欲と戦っていた。もし偉大な使徒が自分の弱さを見ておののきを感じていたとすれば、だれが自信を感じ、誇ることができようか。わたしたちが自己満足と自信を感じ始めた瞬間こそ、わたしたちは不面目な失敗の危険のうちにある。

わたしたちのからみつく罪に対する唯一の確かな防御は、祈り、すなわち日ごとの、時間ごとの祈りである。一日は熱心で、次の日は不注意というのではなく、見張りと熱心さを通して、神との交わりによって活気づけられるのである。祈りが必要とされている。そして、わたしたちはその気分になるのを待つのではなく、わたしたちがそうする気分になってもならなくても祈る、すなわち熱心に祈るのである。天はわたしたちの祈りに対して開かれている。祈りはわたしたちの感謝と神の祝福を求める魂の切望を神のみ座に伝え、活気づける神の恵みの雨のうちにわたしたちに戻ってくる通信路である。非常に多くの人にとって、この通信路が凍りついてしまい、そのために天とのつながりが遮断されている。……ああ、わたしたちがもっと多くひざまずくために時間を用い、もっと少なく自分自身で計画を立てたり、何か偉大なことができるかもしれないと考えたりするための時間を減らすならば良いのだが。（手紙 52, 1874 年 9 月 25 日、エドソンおよびエマ・ホワイトへ）

9月26日

神の絶えざる訴え

「それと同じく、良いわざもすぐ明らかになり、そうならない場合でも、隠れていることはあり得ない。」（テモテ第一 5:25）

自己放縦を愛し、ラオデキヤのメッセージの率直な証につぶやく人々は、自分たちの行動が実際どれほど罪深いかについて無知なのである。しかし、さばきの時には、彼らは自分たちの忘恩と、これほど長く自分たちに耐えて下さり、自分たちをその罪のうちに切り倒されなかったお方に対する反逆の行動を恥じるようになる。そのときにはどんな告白をしても、どんなに泣いても、自分たちの記録を台無しにしてきた人々のために効果がない。今はキリストの弟子だと主張している多くの人々が、悔い改めず、自分たちの魂を永遠の破滅へと欺いてきた人々の間に数えられるようになる。真理の回避は、さばきの日に、どの魂にも自己弁護のために唇を開く勇気を与えることはない。そのとき一人ひとりの個々人のわざが記された書物が開かれる。……

神はご自分のみ言葉から、不注意な生涯を送り、自分たちの一連の間違った行動を恥じていない魂たちにメッセージを送ってこられた。わたしは「ヤコブよ、何ゆえあなたは、『わが道は主に隠れている』と言うか。イスラエルよ、何ゆえあなたは、『わが訴えはわが神に顧みられない』と言うか。あなたは知らなかったか、あなたは聞かなかったか。主はとこしえの神、地の果の創造者であって、弱ることなく、また疲れることなく、その知恵ははかりがたい」とみ言葉が語られるのを聞いた（イザヤ 40:27, 28）。もし不注意で自己放縦の魂が、主をたずね、自分たちの罪を告白するならば、彼らは自分たちの改心していない生涯がどれほど他人を迷わせたかを悟り、そして彼らは悔い改めて、改心するであろう。……

神は絶えず人間の心に訴え、ご自分の愛と憐れみを認めて、悪の原則の代わりにご自分の義を受け入れるようにと心に命じておられる。このようにこのお方は各時代の人類に嘆願してこられた。ノアの時代に、キリストは人間という器を通して人類に語られ、罪のくびきのうちにいた人々に説かれたのであった。このお方は、昼は雲の柱、夜は火の柱のうちに包まれてイスラエルのもとへ来られた。大群集を荒野の放浪時に教育なさったのはこのお方であった。……

これらのことを十分に熟考しない人が多くいる。イスラエルに与えられた指示は、今日すべての生ける魂によって理解されるべきである。人は偉大な知性を主張するかもしれないが、福音の啓示を把握するためには、人間の知性以上のものを必要としている。（手紙 106, 1909 年 9 月 26 日、「オークランドとバークレイのわたしたちの諸教会へ」）

9月27日

小さなことをなおざりにしてはならない

「あなたがたのうち、だれが思いわずらったからとて、自分の寿命をわずかでも延ばすことができようか。また、なぜ、着物のことで思いわずらうのか。野の花がどうして育っているか、考えて見るがよい。働きもせず、紡ぎもしない。」（マタイ6:27, 28）

わたしは〔カリフォルニア、オークランドの大聴衆に〕すべての魂のために重要不可欠な深くて徹底的な働きの必要について語るために呼ばれた。それは魂があらゆる力をもって強められるためである。そして、わたしたちが接触するすべての人々が、わたしたちの主であり救い主であられるイエス・キリストを通して、自分のためにこの徹底的な働きがなされるようにと奮闘するのを、教訓と模範によって助けるために、いかに最も熱心な努力がなされるべきであろうか。

非常に多くの人が自分たちの霊的な状態に関して欺かれている。キリストのうちにわたしたちは勝利を得るのである。このお方のうちにわたしたちには完全な模範がある。このお方は完全な憎しみをもって罪を憎まれたが、その一方で罪人を嘆き悲しむことがおできになった。このお方は神性を持っておられたが、その一方で小さな子供のへりくだりを持っておられた。このお方は、そのご品性のうちに、わたしたちが自分の品性のうちに持たなければならないものを持っておられた。どんな障害も危険もこのお方をそらすことができなかった義務の道から迷い出ない辛抱強さがあったが、その一方でこのお方の心は非常に同情心に満たされていたので、人類の悲哀は最も優しい同情をもって心の琴線に触れたのであった。このお方はそれらを見過ごしにはおできにならなかった。なぜなら、このお方は人類の病気を癒す偉大な医者であられたからである。

このお方は天の大権であられ、将来のために働いておられたが、なお現在のために問題を取り上げ、調整しておられた。小さいことをなおざりになさらなかったが、なお堕落した世界の住民のために最も強力な計画を実行しておられた。

尊い救い主、イエスはご自分の聴衆に彼らの生活の一般的な義務に関して、彼らの衣服や飲食に対する心配について語られた。このお方はこれらのことが、あたかも彼らがこの重荷を絶えず負わなければならないかのように、関心を奪ってしまう問題となるべきではないことをお教えになった。このお方は彼らに鳥を指し示し、彼らの天父は小さなすずめでさえ心にかけて下さることをお教えになった。このお方は諸世界を支えておられるが、なお小さな鳥を心にかけてくださるとすれば、ご自分のかたちにかたどって造られた者たちをそれよりどれほどまさって心にかけて下さることであろう。このお方は美しさに輝く花を指し示し、彼らにこれらを考えてみるようにと仰せになった。そしてそのありのままの単純さのうちにあっても、それらはソロモンの栄華にまさると宣言なさった。それなのに、それらは一日で切りとられてしまうのである。あなたがたは、それらにはるかに勝ったものではないであろうか。（原稿21, 1889年9月27日、日記）

9月28日

目標を目指して走る

「目標を目ざして走り、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めているのである。」（ピリピ 3:14）

わたしたちはみな獲得すべき一つの経験があり、掲げるべき数々の十字架がある。もしわたしたちが自分自身の楽しみを検討し、自分自身の願望と好みを満足させるならば、わたしたちは刑罰と報いの日に足りないことが表れるであろう。もしわたしたちが他の人々に善をなし、神の栄光のために生きるならば、わたしたちは自分自身のことを考えなくなり、世の中において役に立つ人類の祝福となることを求めるようになり、わたしたちは主人の唇より、「よくやった」との祝福を受けるようになる。

わたしたちは次の世のために生きるべきである。行き当たりばったりの目的のない生涯を送ることは大変みじめなことである。わたしたちは生涯における目的―目的を持って生きることを望んでいる。神はわたしたちがみな自己犠牲的で、自己を顧みることが少なく、自己と自己の関心を忘れることが多い者となるように助けてくださる。そして、この地上で誉れを受けることを期待してではなく、善をなすことがわたしたちの生涯の目的であり、わたしたちの存在の目的にかなうためにそうするよう、助けてくださる。神がわたしたちから利己心を脱がせて下さるように、わたしたちの祈りが日ごとに神の御許へ上るようにしよう。……

わたしは目的を持って生きている人々、自分の同胞仲間に益し、彼らを祝福すること、また自分たちの贖い主に誉れを帰し、栄光を帰することを求める人々が、地上において本当に幸福な人々であること、その一方で気ぜわしく、満足せずに、幸福を見出そうと、あれこれと探しては試してみている人々が、いつも失望してつぶやいているのを見た。彼はいつも欠乏していて、決して満足することがない。なぜなら、彼は自分のためだけに生きているからである。あなたの目的を、善をなし、生涯において自分の分を忠実に果たすこととしなさい。

性急さと興奮とがある。人は自分の資本金を公債や株に熱心に投資し、一日で裕福になるが、なお満足しない。彼らは狂気じみた期待をもって投資し続ける。銀行の株は下落し、朝の百万長者が夜にはこじきとなり、彼らが事態を終息させるために最善だと思う方法は、ピストルか、縄か、あるいは湾の水なのである。金銭は、それらを用いる者たちが自分を主の執事だとみなし、自分たちが主の資本を扱っているのであり、いつかは自分の執事職の勘定書を出すのだと考えているときには祝福である。聖書がすべての悪の根だと責めているのは、金銭に対する愛着である。すなわち、人が金銭をなくしたときに、お金がなくなったからといって、神が彼に与えて下さった尊い命を無視するような愛着のことである。（手紙 17, 1872 年 9 月 28 日、J・E・ホワイトへ）

9月29日

あなたの仕事は、神の仕事である

「あなたはその仕事に勤勉な人を見るか、そのような人は王の前に立つが、卑しい人々の前には立たない。」（箴言 22:29 英語訳）

真にキリストに従う人は、すべての仕事上の取引を、ちょうど祈りが自分の宗教の一部であるように、自分の宗教の一部としてみなす。聖書の研究は自分の宗教の一部だとみなされる。なぜなら、これによって彼は自分のなすべきことを学ぶからである。聖書の光のうちに人は自分を、神のみ旨を行うために雇われた神の僕としてみなす。ときどき彼は自分の選ぼうとすることにこれらの秩序が反対し、その決定が自分に任されているのを見出すが、それだからといって自分の仕事に問題を見出すことはない。そして彼は主人であられるお方のみ旨を実行することを求め、神の御使たちはサタンの策略に対して彼の防御となるために彼と共にいる。神のみ言葉がわたしたちの日ごとの教師となるべきである。これがわたしたちのあらゆる試練における唯一まことの慰めの源であり、わたしたちの働きにおける唯一まことの励ましと教えの源である。

クリスチャンは天の原則の代表者として立つべきである。彼は真理をその徳と麗しさのうちに表すという聖なる義務によって結ばれている。優しさと親切と厳密な誠実性が彼の言葉と行動の特徴となるべきである。神に献身し、このお方への奉仕のために別にされて、彼はいつも自分の宗教の信仰に誉れを帰すのである。利己心のひもは一本も品性に織り込まれてはならない。わたしたちはことごとく自分の生涯の仕事に神の御霊を表すように自らを教育すべきである。神の御霊は、神の子供たちの歩みを迷いだすように導くことはない。聖霊が与えてくださる力を通して、わたしたちは自分の生涯からすべての疑わしいことを取り除くことができる。もしわたしたちが信仰の欠如で魂を取り囲んでいた闇から出てきて、神のみ言葉の光の明るい輝きが、自分たちに十分に降り注ぐことのできる場所にわが身をおくならば、わたしたちは聖潔へと導く道を一歩一歩導かれるのである。……

熱心なみ言葉の研究によって、わたしたちが日常生活の中のどこで、神のみ言葉の原則を表していないかを突き止めることは、わたしたちの特権である。そして鏡がわたしたちに自分の欠点を明らかにするように、わたしたちは熱心な祈りと信仰によって、それらを取り除くように努力し、自分たちに与えられた標準にまで到達しなければならない。神がわたしたちに望まれる完全に見合うために懸命に努力するとき、わたしたちは意識しないが、言葉とわざと精神に神のみかたちが表されるようになる。人間の意志が神の意志にかたどられるようになる。（手紙30, 1907年9月29日、オーストラリア連合部会会長、O・A・オルセン長老へ）

なされるべき偉大な仕事

「また、もしラッパがはっきりした音を出さないなら、だれが戦闘の準備をするだろうか。それと同様に、もしあなたがたが異言ではっきりしない言葉を語れば、どうしてその語ることがわかるだろうか。それでは、空にむかって語っていることになる。」（コリント第一 14:8, 9）

危急に対応するメッセージの「はっきりした音」を聞こうと待ってきた人々が多くいる。わたしたちの世界のいたるところに、主は、確信のない正直な魂を持っておられる。……聖化された能力をもってメッセージが宣布されなければならない。主のみ言葉が語られてきた。神は聖化された心と唇を求めておられる。警告のメッセージが大都市にも、また町や村にも与えられなければならない。神の任命された人々は、働きに熱心になり、わたしたちの文書を配り、光を広めなければならない。わたしたちの新聞の記事は、ロマンスのような文体で真理を提示してはならない。なぜなら、こうすることによって、死すべき人間にかつて委ねられた中で最も厳粛な真理による印象が弱められるからである。それらは率直な「主はこう言われる」を含んでいるべきである。メッセージは繰り返され、聖書の論拠が与えられなければならないが、それはロマンスの様式ではなく、聖書の様式で伝えられなければならない。真の宗教の証拠を探し求めている多くの人々がいる。

主は、「厳粛な警告の言葉によって、メッセージが伝えられなければならない。メッセージをはっきり提示することを妨げるようなことは、あなたの計画の中に持ち込んではならない。メッセージを繰り返しなさい。都市の邪悪さは増し加わっている。敵は人々に対して多大な感化力を持っているが、これはわが民が自分たちの責任を悟るために自分の心を開かなかったためである。わが民に自分たちの仕事に取り掛かり、メッセージを宣布するようにと命じなさい。彼らは真の信心の単純さのうちに語り、また働かなければならない。そうすればわたしの霊が心に印象づけてくださる。真の警告の音が鳴り渡るようにしなさい。もしあなたが真理によって聖化されるならば、わが使はあなたの前に行くであろう」と宣言なさる。

偉大な仕事がなされなければならない。真理は、はっきりと言明され、宣布されなければならない。わたしたちは聖霊の聖化のうちに、神のみ前にへりくだって歩み、働かなければならない。わたしたちはまだ働いていないすべての伝道地へ使命者を送らなければならない。そうすれば、主は心に印象づけてくださる。第一、第二天使のメッセージは聖霊の力をもって伝えられ、自分たちが宣布することによって、へりくだって歩み、働いた人々は、大いに祝福された。わたしたちはみな目覚めて、非常なエネルギーをもってなすべき働きに取りかかろうではないか。（手紙 88, 1910 年 9 月 30 日、世界総会会長、A・G・ダニエルス長老へ）

研究 9

清めの特別な働き

2. 大贖罪の日における大祭司の立場と働き

ここを見なさい！

いと高き者の聖徒のため（ダニエル 7:22）の調査審判は、ただイエス・キリストを自分の個人的な救い主として（ヨハネ 3:16, 17; 1:11-13）受け入れ、そのうちにとどまる人々（黙示録 14:12, 12:17）のためだけです。

ですから、この調査審判は彼らがどのような種類の罪を犯したかを調べ出すためではありません（ローマ 8:1, 4）。なぜなら、彼らの罪は前もって明らかにされており、裁きに持ち出されているからです（テモテ第一 5:24）。イエスはすでに彼らの罪をご存知です（ルカ 22:31-34）。そして、このお方は彼らの罪の弁明はなさいません（ユダ 1:9, 各時代の大争闘下巻 217）。しかし、このお方は彼らを愛しておられます（ヨハネ 13:1; ゼカリヤ 3:2）。

ですから、調査審判はご自分の愛する子らを守るための合法的な過程なのです（ローマ 8:19, 23, 26-35, 37-39, 各時代の大争闘下巻 225）。

この過程をたどると次のようになります。

裁き – 聖徒たち – 残りの民 – アガペのゆえに受け入れられた – 前もって – すでに – 弁明はない – とこしえの愛に基づく

そうです、この裁きの目的はご自分の愛する子らの完全な贖いであり、とこしえの愛に基づいているのです。次のみ言葉から、この裁きの光景に注目しましょう。

「わたしは、地上でなすべき働きを持っていた四人の天使たちが、その働きを成し遂げる途中にあるのを見た。**イエスは祭司の衣をまとっておられた**。彼はあわれみの情をもって**残りの民**をごらんになった。それから、両手をあげて、深いあわれみのこもった声で、『わたしの血、父よ、わたしの血、わたしの血、わたしの血！』と叫ばれた。」（初代文集 99）

「**仲保者イエス**は、彼の血を信じる信仰によって勝利したものがみな、その罪を許され、再びエデンの家郷にもど……るように、**嘆願される**のである。……**キリストは、ご自分の民のために、完全で十分な許しと義認だけでなくて、彼らが、ご自分の栄光にあずかり、ともにみ座につくことを求められるのである。**

イエスが、彼の恵みに浴する人々のために嘆願される一方において、**サタンは、彼らを罪人として神の前に告訴する。**……**今度は、サタンは、彼らの生涯の記録を指摘し、品性の欠陥、贖い主のみ栄えを汚したところの、キリストに似ていない点、そして、彼が誘惑して彼らに犯させたすべての罪を指摘して、これらのことのゆえに彼らは自分の臣下であると主張するのである。**

イエスは、彼らの罪の弁解はなさらないが、彼らの悔い改めと信仰を示して、彼らの許しを主張なさり、天父と天使たちの前で、ご自分の傷ついた両手をあげ、わたしは彼らの名を知っている、わたしは彼らを、わたしのたなごころに彫り刻んだ、と言われるのである。……」（各時代の大争闘下巻 216, 217）

ここに、この裁きにおける仲保者イエスのとりなしに、わたしたちはとこしえのご目的と愛を見ることができるでしょうか。サタンは、罪を犯したものを自分の臣下だと主張しますが、キリストは「ご自分の傷ついた両手をあげ、」「わたしは**彼ら**（前もって罪を裁きに持ち出した者）を、わたしのたなごころに彫り刻んだ」と言われます。**彼ら**はこのお方の愛、アガペによって受け入れられているのです。そしてこの裁きの目的は**彼ら**の完全な贖いであり、罪の除去です。ですから、このお方は「**彼ら**の罪の弁解はなさ」いません。そして、**彼ら**（前もって罪を裁きに持ち出した者）はこの裁きが有罪を宣告するためではなく、それを消し去るためであることを知っています。キリストはすでに**彼ら**（前もって罪を裁きに持ち出した者）の罪をご存知だからこそ、ご自分の血を注ぎ、その血によってとりなして下さるのです。

裁きの目的はそればかりではありません。神のはじめからのご目的、「完全で

十分な許しと義認だけでなくて、彼らが、ご自分の栄光にあずかり、ともにみ座につくことを」合法的に「求められ」ます。

しかし、この裁きで見逃される罪はありません。「サタンは、彼らの生涯の記録を指摘し、品性の欠陥、贖い主のみ栄えを汚したところの、キリストに似ていない点、そして、彼が誘惑して彼らに犯させたすべての罪を指摘し」ます。すべての欠陥、すべての罪です。そして、それらは弁明の余地のない事実なのです。いったい、そのような罪人であるわたしたちを通して、神のご目的が成就する可能性はどこにあるのでしょうか?

「彼らの助け主（助け主= parakletos　ヨハネ 16:7, ヨハネ第一 2:1）であられるイエスが、悔い改めと信仰によってその魂を彼にゆだねたすべての者のために、**力ある嘆願**をして下さる。イエスは彼らの訴えを述べ、**カルバリーでの大いなる論拠**によって、告発者を打ち破られるのである」（国と指導者下巻 192）。

「キリストは、ご自分のさかれた体を提供して、神の嗣業を買いもどされた。これは人間にもう一度機会を与えるためであった。『そこでまた、彼は、いつもいきていて彼らのためにとりなしておられるので、彼によって神に来る人々を、いつも救うことができるのである』（ヘブル 7:25）。キリストは彼の清い生涯、服従の生活、カルバリーの十字架の死とによって、失われた人類のためにとりなしをされた。そして、**今わたしたちの救いの君は、単なる嘆願者としてではなくて、戦いに打ち勝った勝利者として、わたしたちのために、とりなしをなさるのである**」（キリストの実物教訓 136）。

「主はわが主に言われる、『わたしがあなたのもろもろの敵をあなたの足台とするまで、わたしの右に座せよ』と。……あなたはメルキゼデクの位にしたがってとこしえに祭司である」（詩篇 110:1,4; ヘブル 7:1-3 参照）。

とこしえのご目的を果たすために、御父は御子を「敵をあなたの足台とするまで、わたしの右に座せよ……あなたはメルキゼデクの位にしたがってとこしえに祭司である」とお定めになりました。そして、この大祭司の力強い嘆願は、「わたしの血！」、「カルバリーでの大いなる論拠」です。ですから、キリストの十字架の犠牲を真に感謝する者は、繰り返す罪のために過去の十字架を主張する代わりに、その血をもってとりなして下さっている大祭司イエスを仰いで、今、「すべての罪からわ

たしたちをきよめる」その「御子イエスの血」の力を受けて生きるのです（ヨハネ第一 1:7）。

法廷で扱われる問題は罪ですが、キリストがこの罪を憎み、完全に除去するために働いておられる一方で、「主を求める者に対するサタンの告発は、彼らが罪を犯したことに対する腹立たしさからではない。……**彼の告発はただ、キリストに対する敵意に基づいている**」（国と指導者下巻 191）。

この法廷の光景がゼカリヤ 3 章に記されています。

「ゼカリヤの幻は、贖罪の大いなる日の、……神の民の経験に、……当てはまる。」（国と指導者下巻 193）

「真に罪を悔い改め、キリストの血が自分たちの贖いの犠牲であることを信じたものは、みな、天の書物の彼らの名のところに、罪の許しが書き込まれる。彼らは、**キリストの義にあずかる者となり、彼らの品性は、神の律法にかなったものとなったので、彼らの罪は、ぬぐい去られ……る**」（各時代の大争闘下巻 215）。

「神の民が神の前で心を悩まし、**心が純潔になることを嘆願するときに**、『彼の汚れた衣を脱がせなさい』という命令が出される。そして、「**見よ、わたしはあなたの罪を取り除いた。あなたに祭服を着せよう**」という励ましの言葉が語られる（ゼカリヤ書 3:4）。**キリストの義というしみのない衣が、試され、誘惑された、忠実な神の子らに着せられる**。さげすまれた残りの民は栄光の衣を着せられ、世俗の腐敗に二度と汚されることはないのである。彼らの名は小羊の命の書に**とどめられ**、各時代の忠実な者の中に**加えられる**のである。……

サタンが告発をしていたときに、目には見えないが、聖天使たちがあちこち行きめぐって、忠実な人々に生ける神の印を押していた。この人々は、その額に父なる神の名を記されて、小羊とともにシオンの山に立つのである。彼らはみ座の前で新しい歌を歌うが、それは地上から贖われた 144000 人のほかは、だれも学ぶことができない。『彼**らは、……小羊の行く所へは、どこへでもついて行く**。彼らは、神と小羊とにささげられる初穂として、人間の中からあがなわれた者である。**彼らの口には偽りがなく、彼らは傷のない者であった**』（黙示録 14:4,5）。

ここでみ使いの言葉が完全に成就する。『大祭司ヨシュアよ、あなたも、あなたの前に

すわっている同僚たちも聞きなさい。彼らはよ**いしるしとなるべき人々**だからである。**見よ、わたしはわたしのしもべなる枝を生じさせよう**』（ゼカリヤ書 3:8）。キリストは彼の民の贖い主、救い主としてあらわされる。残りの民の旅路の涙と屈辱が、神と小羊の前で喜びと誉れに変わるときに、人々は彼らを見て、まことに**驚き怪しむ**のである。……**シオンに残る者、エルサレムにとどまる者**、すべてエルサレムにあって、生命の書にしるされた者は**聖なる者ととなえられる**（黙示録 22:11 参照「義なる者はさらに義を行い、**聖なる者はさらに聖なることを行うままに**させよ」）」（イザヤ 4:2-4）」（国と指導者下巻 196, 197）。

「**こうして、新しい契約の約束が完全に成就する**。『わたしは彼らの不義をゆるし、**もはやその罪を思わない**。』『主は言われる、その日その時には、**イスラエルのとがを探しても見当らず、ユダの罪を探してもない**』（エレミヤ書 31:34;50:20）」（各時代の大争闘下巻 217）。

この新しい契約の約束は、キリストの血による仲保の働きによって完成します。その結果、審判が終わる日には、神の子らの「とが」は「見当たらず」、「罪を探してもない」のです。

しかし、キリストの仲保にあずかる者は、今、「小羊の行く所へは、どこへでもついて行」き、小羊と共に「シオンに残る者、エルサレムにとどまる者」であることを覚えている必要があります。将来のある出来事において神のみ前にある自分の立場が変わるのではありません。永遠の運命が決まるとき、彼らは「聖なる者はさらに聖なることを行うままにさせよ」と宣言されるのです。アガペによってこのお方の「たなごころに彫り刻」まれた聖徒たちは、つねにこのお方を仰ぎ、今、このお方の大祭司のとりなしによって生きるのです。

(46 ページの続き)

持っていたすべてのものをはぎとられてしまいました。彼は打ちのめされ、傷つき、死ぬがままにすておかれました。

彼がこのようにたおれていたとき、祭司とその次にレビ人がエルサレムにある宮からその道にやって来ました。しかし、このかわいそうな人を助ける代わりに、彼らは反対側を通りました。

これらの人々は神さまの宮の奉仕に選ばれた人であったので、このお方のように、あわれみとやさしさに満ちているべきでした。しかし、彼らの心は冷たくて無情でした。

その後、サマリヤ人が近くにきました。サマリヤ人はユダヤ人によってさげすまれ、憎まれていました。これらの人々のひとりに、ユダヤ人は一杯の飲み水やひとかけらのパンでもあげようとはしませんでした。しかし、サマリヤ人は立ち止まってこれを考えようとはしませんでした。強盗が自分を見張っているかもしれないということさえ立ち止まって考えようとしませんでした。

そこに見知らぬ人が血を流し、今にも死にそうになって倒れているのです。サマリヤ人は自分の上着を脱いで、彼を包みました。

彼はこの人に自分のぶどう酒を飲ませ、そしてその傷に油を注ぎました。彼はこの人を自分の獣に乗せ、宿に連れて行き、一晩中この人の世話をしました。

次の朝、出かける前に、彼は宿主にこの人が再び元気になるまで世話をしてくれるようにお金を払いました。イエスさまはこの物語を語られました。そして律法学者に向かい、このお方はお尋ねになりました。

「『この三人のうち、だれが強盗に襲われた人の隣り人になったと思うか』。彼が言った、『その人に慈悲深い行いをした人です』。そこでイエスは言われた、『あなたも行って同じようにしなさい』(ルカ 10:36, 37)。こうしてイエスさまは、わたしたちの助けを必要とするすべての人がわたしたちの隣人であることをお教えになりました。わたしたちは自分自身が取り扱われるのを望むちょうどそのとおりに、人を取り扱わなければなりません。

祭司とレビ人は神さまの律法を守っているふりをしましたが、それらを本当に守っていたのはサマリヤ人でした。彼の心は親切で愛情がありました。

傷ついた見知らぬ人の世話をすることにおいて、彼は神さまへの愛と同様に人への愛を表ししていました。わたしたちがお互いに良いことをすると神さまは喜ばれます。わたしたちはまわりにいる人々に親切にすることによって、自分たちのこのお方への愛を表すのです。

親切な愛情ぶかい心は、この世のすべての富よりもさらに価値があります。良いことをするために生きる人々は、自分たちが神さまの子であることを表すのです。彼らこそ、キリストと共にこのお方の王国に住むようになる人々です。

ごぼう味噌

■材料

ごぼう	1/2 本
ネギ	1/2 本
にんじん	1/3 本
シメジ	1/2 パック
しょうが	一かけら
合わせみそ	大さじ1と1/2
砂糖	大さじ1
しょうゆ	小さじ1
昆布だしの素の水とき	大さじ1
水	50 ～ 60cc

■作り方

1. 野菜はみじん切りに。フライパンにゴマ油大さじ1を入れ、ネギとショウガを炒め、
2. ごぼうと人参を入れて炒め、だしの元の水ときを入れ、ごぼうの良い香りがしてきたらシメジを加え、ざっと炒める。
3. 材料を混ぜた後、合わせ調味料を加えて蓋をして水気がなくなるまで炒め煮する。

ごぼう味噌はご飯や、軽く焼いた厚揚げに載せたり、鍋料理のタレに使ったりと応用がききます。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校：9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教：11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究：14:00-15:00

【公開放送】http://www.4angels.jp

聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先：〒 350-1391　埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係

是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。

【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。

イエスの物語

第 19 話　キリストの教え（III）

灯台のあかりはやみの中に輝いて、船を安全に港へと導きます。このようにキリストに従う人々はこの暗い世の中で輝き、人々をキリストと天の家へと導くのです。

これはキリストに従うすべての人がすべきことです。このお方は他の人々を救うためにご自分と共に働くよう彼らを召しておられます。

このような教訓はキリストの話を聞いていた人々にとってなじみがなく新しかったので、このお方は彼らに何度も繰り返されました。あるとき、律法学者がこのお方のもとに来て「先生、何をしたら永遠の命が受けられましょうか」と質問しました。イエスさまは彼に言われました、「律法にはなんと書いてあるか、あなたはどう読むか」。

「彼は答えて言った『心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ』。また『自分を愛するようにあなたの隣人（りんじん）を愛せよ』。

『あなたの答えは正しい』」とキリストは言われました。「そのとおり行いなさい。そうすれば命が得られる」。律法学者はこれを行っていませんでした。このお方は彼が自分自身のようにほかの人を愛していないのを知っておられました。悔い改める代わりに、彼は自分の利己心のための言い訳を見つけようとしました。そこで彼はイエスさまに尋ねました「わたしの隣人とはだれのことですか」（ルカ 10:25 － 29）。

祭司やラビたちはこの問題についてしばしば口論していました。彼らは貧しい人や無知な人を自分の隣人とは呼んでおらず、彼らにやさしさを表そうとしませんでした。キリストは彼らの口論にはまったく関係されませんでした。このお方はこの質問に対して、少し前に起こったできごとにまつわる物語によってお答えになりました。

ある人がエルサレムからエリコに下っていく途中であったとこのお方は言われました。道はけわしく岩がごつごつしていて、荒れ果てた寂しい地域を通っていました。ここでこの人は強盗にとらえられて、

（43 ページに続く）